

ワークショップの用語集

	用語	頁	説明
ア	アクティビティ	P4	・ワークショップで行う「意見交換」「作品づくり」「発表」「疑似体験」などの活動のこと。場面（オープニング、ワーク、クロージング）によって使い分ける。ワークショップは複数のアクティビティを組み合わせ、行われる。
	オープニング	P6	・ワークショップの導入部分。ワークショップの場をつくり、参加者同士のコミュニケーションをつくる時間。
カ	クロージング	P6	・ワークショップのまとめの部分。ワークをふりかえったり、ワークショップ全体の感想を聞いたりする時間。
サ	スキル	P11	・ファシリテーターに求められる技術のこと。
	シナリオ	P12	・プログラムシートにファシリテーターの「問い」の言葉を書き込んだもの。ワークショップの進行台本になる。
タ	テーマ・目標	P5	・ワークショップ全体の目的。主催者から提示される場合もある。
	問い	P11・P12	・ファシリテーターから参加者に対する問いかけの言葉。参加者が考えるきっかけになるような、発言しやすい問いがよい。
ハ	ファシリテーター	P4・P5・P10	・参加者の活動に寄り添いながら、より多くの気づきや学習ができるように支援する、ワークショップの進行・案内役。
	プログラム	P5	・内容のこと。ワークショップはプログラムに沿って進行する。ファシリテーターは事前準備としてプログラムをつくる。
	場（場づくり）	P13	・教室や建物などの「場所」ではなく、気持ちや意見を自由に言える、参加しやすい状態、雰囲気のこと。
	バズセッション	P8	・グループ討議の技法。司会者を決めずにワイワイと3～4人で自由におしゃべりする。
	プログラムシート	P12	・ワークショップの全体像を書き出す用紙。
ワ	ワークショップ	P3・P4	・参加・体験型学習。
	ワーク（展開）	P6	・ワークショップの中心部分で、参加者が考えたり発言したりする場面。1つ以上のアクティビティを実施する。
	ワールドカフェ	P16・P28・P38	・グループ討議の技法。
	ワークシート	P9	・アクティビティで使用する用紙。A4やA3の白紙の場合もある。

法務省委託 2015（平成27）年 1月発行

人権啓発ワークショップ事例集
「ワークショップをはじめよう」～参加型の人権教室

企画：法務省人権擁護局
ホームページ <http://www.moj.go.jp/JINKEN/>

監修：桜井 高志（桜井・法貴グローバル教育研究所）

制作：公益財団法人 人権教育啓発推進センター
〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目10番12号 KDX芝大門ビル4F
電話 03-5777-1802（代表） FAX 03-5777-1803
ホームページ <http://www.jinken.or.jp>

＊複製・転載についてはお問い合わせください。



目次

●はじめに	3
ワークショップの基本・準備	4～13
●ワークショップをはじめよう	4
●ワークショップを設計する「ワークショップの構成」	5
●ワークショップを設計する「全体を組み立てる」	6
●ワークショップを設計する「場面を考える」	7
●ワークショップの事前準備「場の設定」	8
●ワークショップの事前準備「使うもの」	9
●ファシリテーターの役割と心構え	10
●ファシリテーターのスキル	11
●ワークショップの実施「プログラムシート」	12
●ワークショップの実施「参加者との約束」	13
ワークショップの実施例	14～19
人権ワークショップ ～リスペクトアザースを見て考えよう	
●オープニング(導入)「チェックイン」	
●ワーク(展開)1「DVD視聴」	
●ワーク(展開)2「ワールドカフェ」	
●クロージング(まとめ)「展覧会」	
アクティビティ事例集	20～34
●アクティビティ一覧	20
●オープニング(導入)で使うアクティビティ	21
①「チェックイン」／②「相手のよいところさがし」／③「インタビュー」	
●ワーク(展開)で使うアクティビティ	22
④「あなたはどこに立ちますか？」	22
⑤「一歩前へ進め」	24
⑥「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい？」	26
⑦「ワールドカフェ」	28
⑧「ロール・ディベート(役割討論)」	30
⑨「ジョハリの窓」	32
●クロージング(まとめ)で使うアクティビティ	34
⑩「沈黙」／⑪「チェックアウト」／⑫「展覧会」	
プログラム例	35～41
●資料 プログラムシート	35
●プログラム例①「あなたはどこに立ちますか？」	36
オープニング(導入)「インタビュー」／ワーク(展開)1「あなたはどこに立ちますか？」／クロージング(まとめ)「沈黙」	
●プログラム例②「一歩前へ進め」	38
オープニング(導入)「相手のよいところさがし」／ワーク(展開)1「一歩前へ進め」／ワーク(展開)2「ワールドカフェ」／クロージング(まとめ)「展覧会」	
●プログラム例③「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい？」	40
オープニング(導入)「チェックイン」／ワーク(展開)1「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい？」／ワーク(展開)2「ロール・ディベート(役割討論)」／ワーク(展開)3「ジョハリの窓」／クロージング(まとめ)「チェックアウト」	
●DVDの構成内容	42
●DVD貼付／「資料集」のデータの取り出し方	43
●ワークショップの用語集	44

はじめに

我が国の人権教育・啓発への取組は、平成14年3月に策定された「人権教育・啓発に関する基本計画」(平成23年4月1日一部変更)に基づき、国民が人権に関する正しい知識と日常生活の中で生かされるような人権感覚を身につけることができるよう学校、地域、家庭、職場その他の様々な場を通じて行われてきました。

その基本計画では、「学習意欲を高めるような参加・体験型の学習プログラムの開発を図る」、「国民が主体的・能動的に参加できるような啓発手法(たとえば、各種のワークショップや車椅子体験研修等)にも着目し、これらの採用を積極的に検討・推進すべき」と、参加・体験型学習の推進が求められています。

こうした背景を踏まえ、参加者自らの知識や体験をもって積極的に関わるワークショップの手法を取り入れた人権啓発学習の機会が広まってきています。

価値観の多様な現代社会においては、自分がよりよく生きていくことと同様に、自分が誰かの権利を侵害しないためにも人権について学び、正しくコミュニケーションを取ることが必要です。

参加・体験型であるワークショップは、参加者の理解と共感を引き出すためにどうすればよいかということにポイントが置かれ、指導者が自分の考えを押しつけてしまうのではなく、参加者自身が自分と向き合い、考えや思いを引き出すことにあります。

本書では、カタカナ用語が多用されていますが、これは、海外から導入された「ワークショップ」という方法を基本にしているためです。学校や地域などで、人権教育・啓発を担う方々が初めてワークショップを行う際の入門書となるよう、個々のプログラムなどを分かりやすく説明しています。さらに、より効果的なワークショップ実施の参考に付属のDVDを作成しました。本文中の「実施例」を基に中学1年生を対象に行ったワークショップを収録しています。

ワークショップに参加する一人ひとりが人権の大切さに気づき、理解と行動を促すための教材として、指導者の皆様がワークショップをご理解いただき、ご自分の言葉として参加者に伝えることができるよう、本書が活用されることを願っています。

本文中の「」のマークは、ファシリテーターのセリフ例を記載しています。併せて、DVDをご参照ください。

ワークショップをはじめよう

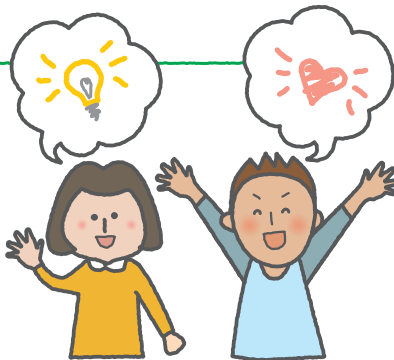
ワークショップとは

ワークショップのもとの意味は「作業場(さぎょうば)」「工房」です。人が集まって何かをつくる場所というイメージです。現在では、参加者が、テーマについての活動や体験を通して気づいたり、考えていく場のことを意味するようになりました。

主役は参加者、ファシリテーターは進行・案内役

ワークショップでは、あらかじめ用意した答えや結論を教えるのではなく、参加者が気づいたこと、感じたこと、考えたことを大切にします。

ワークショップで、その場をつくっていくのは参加者です。そして、参加者の活動に寄り添いながら、より多くの気づきや学習ができるように支援する、ワークショップの進行・案内役を**ファシリテーター**と呼びます。



アクティビティによる協働と学習

アクティビティとは、ワークショップに参加して行う「意見交換」「作品作り」「発表」「疑似体験」などの活動のことです。アクティビティを通して、参加者は皆で同じ体験をしますが、それぞれの持っている知識・経験・個性・価値観などにより、気づきや感じ方は様々です。また互いに影響し合い、ひとりでは思いつかないことが創造できたり、ひとりの考えや思いが、メンバー全体を成長させたりすることもあります。これがアクティビティによる協働です。こうして参加者は新たな気づきを得たり、それを行動に移す手段を見つけるなど、自ら学習していくことができるのです。



本書は、学校や地域で、人権教育・啓発を担う皆さんが、その知見や経験を基に、ファシリテーターとなり、アクティビティを取り入れ、ワークショップをはじめていただくためのテキストです。

さあ、ワークショップをはじめましょう!

ワークショップを設計する ワークショップの構成

ワークショップを構成する3要素

ワークショップは3つの要素で構成されています。

1 参加者

参加者の属性を把握します。学校の場合は学年、人数、男女比、開催時期などをプログラムの内容を検討するときに考慮します。

2 プログラム

ワークショップはプログラムに沿って進行します。ワークショップのテーマ・目標を限られた時間内で効率的に達成するために、何をどんな順番で行うのか考えておく必要があります。

3 ファシリテーター

ワークショップの進行・案内役です。事前にワークショップのプログラムを考え、組み立て、全体の設計をします。ワークショップの実施時は、プログラムの進行の説明や指示、話し合いが楽しくできるようにサポートしたり励ましたり、盛り上げたりします。



ワークショップの設計

初めに、ワークショップの**テーマ・目標**を考えます。テーマは主催者や学校の担当者から提示される場合もあります。人権全般をテーマとしたり、子どものいじめ、インターネットの使い方、男女平等など個別の課題をテーマにすることも可能です。テーマが決まったら、ワークショップのタイトル、全員が参加しやすくなるにはどうしたらよいか、どのようなアクティビティを用いるか、時間配分をどうするかなど、事前にしっかりとプログラム(内容)を検討し、ワークショップ全体を設計します。

ワンポイントアドバイス

ワークショップの設計を「5W1H」で考えてみよう!

What (何を)	: ワークショップ全体の目的はなに?
Why (なぜ)	: なぜワークショップをやるの?
When (いつ)	: ワークショップの開催日時はどんなタイミング? 新学期, 夏休み前?
Where (どこで)	: 開催場所は教室, 体育館, 屋外? 机と椅子は?
Who (だれ)	: 参加者の属性は? ファシリテーターは誰?
How (どのように)	: どんなプログラムにする?

ワークショップを設計する 全体を組み立てる

ワークショップを設計する 場面を考える



プログラムの全体を組み立てる

ワークショップのプログラムの全体構成は「オープニング(導入)」「ワーク(展開)」「クロージング(まとめ)」の3つから成り立っています。これらは、いくつかの「場面」によって構成されます。まず、全体の組み立てを考えましょう。

プログラムの
全体の
組み立て

タイトル		
テーマ・目標		
時間配分	場面	
	オープニング(導入)	ねらい
	ワーク(展開)	ワーク(展開)1 ねらい
		ワーク(展開)2 ねらい
		ワーク(展開)3 ねらい
	クロージング(まとめ)	ねらい
		アクティビティ
		導入のアクティビティ
		アクティビティ
		アクティビティ
		アクティビティ
		まとめのアクティビティ

1 オープニング
(導入)

ワークショップの「導入」部分です。参加者全員で「ワークショップのテーマ」「進め方」「約束」などを共有します。参加者の属性によってはコミュニケーションをはかる時間でもあります。オープニングで頭をほぐし、話しやすい雰囲気をつくるなど、参加者がワークショップに積極的に参加できるかどうかが決まる大切な時間です。

2 ワーク
(展開)

ワークショップの「中心部分」です。ワーク(展開)は、「ワーク(展開)1」「ワーク(展開)2」というように、いくつかの「場面」が組み合わさってできています。各場面には、それぞれ「ねらい」があり、一つ以上のアクティビティからなり、ワークショップを目的に向かって進めていきます。

3 クロージング
(まとめ)

ワークショップの「まとめ」の部分です。参加者がどんな感想を持ったか、何に気がついたか、気持ちよく参加できたか、発言できたか、話を聞けたかなどワークショップ全体をふりかえります。

* 関連P12・P35参照

ワンポイントアドバイス

ワークショップの「タイトル」は大切

- 何をやるのだろうと興味を持たせるタイトル → 「あなたはどこに立ちますか?」
- 人権を学ぶことが直接的に理解できるタイトル → 「人権ってなんだろう」

「ワークショップ」という言葉になじみがない、意味がよくわからない、という人もいます。タイトルに、あえて「ワークショップ」とつけなくてもよいでしょう。

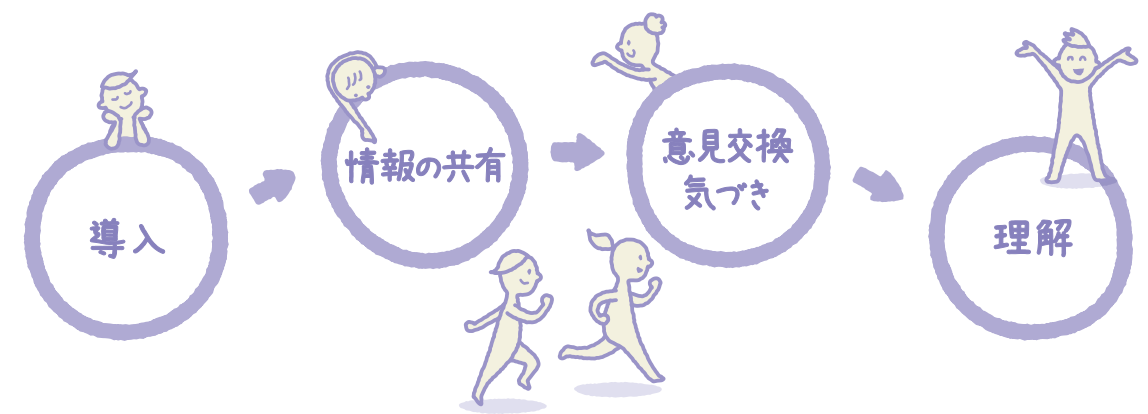
例 人権について理解を深めるためのプログラム

いきなり「人権とは何か」「人権をどう考えるか」といった難しい問いかけから始めるのではなく、お互いの会話や、人権に関するDVD視聴などを通して、人権について順に考えを進めていきます。

ワーク(展開)には、参加者が自分で考える、意見交換し相手の考えを聞く、新たな気づきや理解の深まりを促進できるようなアクティビティを取り入れます。

▶自分の「人権」、他者の「人権」について理解を深めていくワークの例

場面	ねらい	アクティビティの例
オープニング (導入)	リラックス 動機づけ	「チェックイン」 参加者の気持ちをリラックスさせる ワークショップのテーマを考える動機づけをする
ワーク(展開)1	情報の共有	「DVD視聴」 ワークショップのテーマに沿った内容のDVDを 視聴し、全員で共通の情報を得る
ワーク(展開)2	意見交換 気づき	「ワールドカフェ」 意見交換をしながら、新たな気づきや発見、思 い、感情が生まれてくる
クロージング (まとめ)	理解	「展覧会」 多様な考え、思いがあることを知り、自分の考え や思いの変化にも気がつく。テーマに対する理 解が深まる



ここで紹介したプログラムの場面の流れは一例です。アクティビティには様々な手法があるので、テーマ・目標に向けた効果的な組み立てを考えてみましょう。

ワークショップの事前準備 場の設定

ワークショップのプログラムが決まったら、プログラムに合った参加しやすい「場」を設定します。5W1Hでいうと「Who(誰が)」「Where(どこで)」の部分です。参加者の人数、場所や広さの条件に合わせて、アクティビティの内容やねらいによって人の組み合わせを変えたり、机の配置や掲示物を貼るなど工夫次第で、新鮮な雰囲気、参加しやすい環境を整えることができます。

人数による場の設定

1人



沈黙の時間。自分の気持ちや考えを見つけ、文字にする時間。

2人



親密な意見交換をするとき。話しているうちに気づきや、触発作用を生み出す。

3人



新しい意見が出やすい。1人が観察者にもなれる。

4~6人



チームが成立する。互いの知識や意見が多様化する。チーム間の意見交換で意思決定にもつながる。

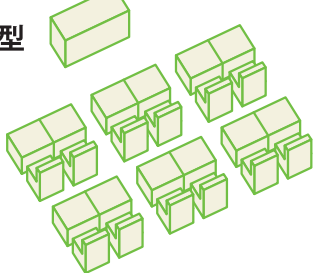
全員



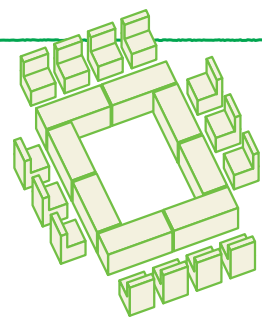
まとめる、ふりかえりは全員で。アクティビティを体験し、一体感を育む。

レイアウトによる場の設定

● 教室型

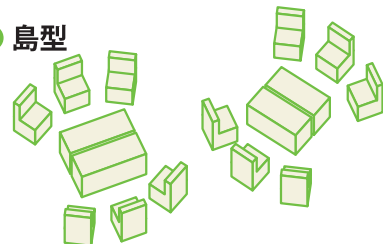


学校の基本形。授業のイメージが強い。映像の視聴など。机が固定されている場合は、隣同士、前後でグループをつくとよい。

● コの字型
口の字型

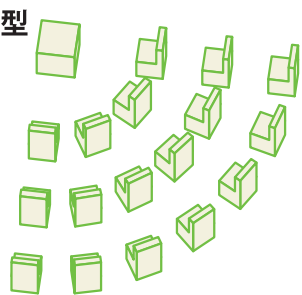
参加者同士の顔が見える。ファシリテーターが中央に入って全体を見ることができる。15人程度までがよい。それ以上になると、空間が広くなりすぎて、対面の人が遠くなる。

● 島型



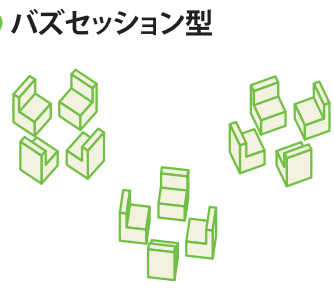
4~6人が一つの机を囲む形。グループ活動がしやすい。模造紙を使うアクティビティ以外ではテーブルを少なくする。

● 扇型



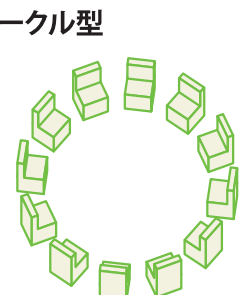
椅子を扇状に並べる。机がないのでお互いの距離が近くなる。大教室で人数が多い場合により。

● バズセッション型



3~4人程度で椅子を寄せて小さな円を作る。リラックスした、話しやすい雰囲気になる。人の移動も楽にできる。

● サークル型



部屋全体に広がる大きな円型に座る。全員で話し合っている一体感がある。全体が見えるので、緊張する人もいる。

● 椅子なし型



床に座る。体育館などでは自然にこの形になる。

ワンポイントアドバイス

壁を使う!

ワークショップのプログラム、ルールを書いた模造紙やアクティビティで制作したものを、会場の壁やホワイトボードに貼ります。教室の場合は、できれば時間割表などを取り外して、いつもとちょっと違った環境でワークショップを開催してみましょう。

*会場によっては、壁への貼り出しが禁止されている場合があるので、事前に確認しておきましょう。

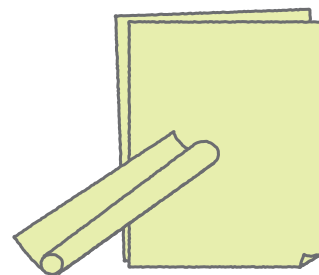
ワークショップの事前準備 使うもの

ワークショップの運営に必要なものを準備します。アクティビティの内容を確認して実用的で使いやすいものを用意してください。小道具を使って楽しい雰囲気をつくることもできます。

● 模造紙

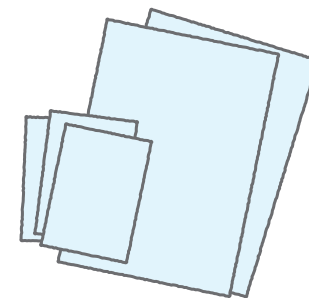
白紙または罫線、マス目のあるもの

- ・ルールを事前に書いておく
- ・アクティビティでつくった作品、グループ討議のまとめ



● A4やA3の白紙

- ・個人の感想や気づきを書いてまとめるときなど、ワークシートとして使う
- ・イラストやポスター、標語づくり

● 色紙, 折り紙
数色

- ・アクティビティで使用する



● 付箋紙

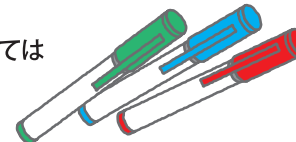
- ・名刺サイズが使いやすい
- ・意見交換のときに便利



● マジック

カラフルな水性のもの(裏うつりしないもの)
中太がよい

- ・アクティビティによっては参加人数分
3色以上あるとよい



● 名札

胸につけるタイプのもの
文字は参加者が自分で書くことよい

- ・A4の白紙を四つ折りにして
卓上の名札をつくることもできる



● マグネット

- セロハンテープ
壁に貼り出すときに必要
- ・環境に合わせて使用



● ベル

● ゴング

● BGM (CD, MDカセットなど)

- ・時間を知らせる音の鳴るものがあると、意見交換の時に時間内に話そうと意識する
- ・BGMは休憩時間や、沈黙の時間などに使うとよい



● ストップウォッチ

● 数字の大きい卓上時計

● キッチンタイマー

教室の時計でもよい
キッチンタイマーは音が鳴る

- ・アクティビティで1分、3分など短く時間を区切る必要がある場合はストップウォッチが便利



ファシリテーターの役割と心構え

ファシリテーターのスキル



ファシリテーターは支援する人

ファシリテーションには「促進する」「容易にする」「円滑にする」「支援する」という意味があります。ここでは、ワークショップのプログラムをつくり、全体の進行・案内役として参加者の主体的な気づき、学びを支援する人をファシリテーターと呼びます。



参加者のやる気を引き出す

人前で話すのが恥ずかしい、模造紙に書くのが面倒くさいなど、前向きでない参加者もいます。また、一人ひとりの意欲は高くても、場のまとまりがない場合もあります。ワークショップにはテーマはありますが、勉強のようにひとつの正解や予定していた答えが出るように参加者を指導することが目的ではありません。ファシリテーターの役目は、プログラムの進行を担い、参加者一人ひとりの気づきを尊重し、相互作用から生まれる新しい気づきや学びを引き出していくことです。



ファシリテーターも気づき変化していく

参加者の経験、個性、能力はそれぞれ違い、大切なもの、価値観も皆違います。それはファシリテーターも同様です。これまでの経験、個性、能力を生かし、ワークショップを通して、ファシリテーターも新たな気づきを得て変化し、成長することができます。



ワンポイントアドバイス

ファシリテーターは場をつくる大切な存在 = “第一印象は大切”

- 服装、髪形、化粧は清潔第一 … 優しそう、楽しそう、元気そう、真面目そう
- 親しみやすい笑顔 … リラックス
- 落ち着いた雰囲気 … 安心感
- 元気な話し方 … 聞きたくなる
- きちんと聞く姿勢 … 話したくなる
- においに敏感な参加者もいます … 香水や整髪料をつけ過ぎないように

ワークショップを進行するときに必要なスキルの一つが「問い」です。「問い」によって参加者の好奇心、注意力、思考、創造力を引き出します。

1 質問文の形にする

「～とは何か?」「なぜ～なのか?」「誰が～なのか?」テーマを質問文の形にすると、議論の目的がはっきりします。

- (例) 「いじめについて」考えましょう→「どうしていじめが起きるのか?」考えましょう
 「いじめについて」考えましょう→「どうしたらいじめが起きないのか?」考えましょう
 「いじめについて」考えましょう→「いじめを見たらどうすればよいのか?」考えましょう

2 答えやすい問いから考える問いへ

いきなり結論を問いかけても、参加者は思考がそこまで追いついてきていなければ、明確な答えも、新しい考えも言葉になって出てきません。

- (例) ×「この体験から何を学びましたか?」
 ○「いま、どのような体験をしましたか?」(経験)
 ○「この体験で何を感じましたか?」(感想)
 ○「なぜ、そのように感じたのでしょうか?」(考察)
 ○「そこから何を学びましたか?」(価値観)
 ○「では、これからどうすればよいでしょうか?」(決意)



3 一度にたくさんの問いをしない

聞きたいこと、考えて欲しいこと、大切なことを一度に問いかけると、参加者は、何から答えていいか、どうやって話そうか、考えがまとまらない結果になります。

- (例) ×「あなたの強みは何ですか? 弱みは何ですか? その強みは本当に強みですか? 強みを生かすにはどうしたらよいですか? その強みはどこで発揮しますか?」
 ○「あなたの強みを3つ考えてください」

4 誰もが答えを持っている、答えられる問いから始める

アクティビティの開始時には、誰がどう答えてもよい問いにします。

- (例) 「最近、楽しいことはありましたか?」
 「小学生のころ、どんな遊びが好きでしたか?」
 「いま食べたいものを想像してください、それは何ですか?」

ワークショップの実施 プログラムシート

ワークショップの設計は、プログラムシートに書き込みながら進めます。時間軸に沿って整理していくことで各場面の流れ、場の設定などがより具体的に見えてきます。プログラムシートの形式は自由なので、自分の使いやすい形を見つけてください。＊プログラムシートは、P35をコピーまたは付属DVDの資料集にありますのでご活用ください。

1 プログラムシート(全体像)

必要な情報をプログラムシートにまとめます。下記の表は標準的なもので、時間軸がわかりやすく、「問い」の部分にファシリテーターの言葉を記入すれば、当日の進行台本になります。

タイトル

インターネットの使い方について考えよう!

テーマ・目標



●インターネットのプラス面、マイナス面を理解し、犯罪やいじめにつながるものがない使い方について考えてもらう

対象者／人数



〇〇中学1年2組／36人

日程・時間
／場所



平成〇年〇月〇日 3時限目(50分)
／〇〇中学校1年2組 教室

	時間	ねらい	場面／アクティビティ／問い	場の設定
1	5分	本日のタイトル・流れを伝える	オープニング(導入) ●気持ちを和らげるアクティビティ 問い「*****」	教室型に着席
2	20分	情報を共有する	ワーク(展開)1 ●人権啓発ビデオを見るアクティビティ 問い「*****」	DVDが見える位置に移動
3	15分	感想を交換・分析・新たな気づきを整理する	ワーク(展開)2 ●感想を交換・分析し気づきを整理するアクティビティ 問い「*****」	島型に着席
4	10分	ワークショップのまとめ	クロージング(まとめ) ●今日のふりかえりをするアクティビティ 問い「*****」	

準備物：

人権啓発ビデオ(DVD), 模造紙, 付箋紙, マジック3色, ストップウォッチ, 名札

2 シナリオをつくる(詳細, 部分)

プログラムシートの「問い」の部分に参加者への問いかけの言葉を書き込めば、シナリオになります。この「問い」は実際のワークショップの進行時に変化することもあります。「場」の状況を見ながら臨機応変に対応していきます。

ワークショップの実施 参加者との約束



参加者との約束で場をつくる

参加者が緊張せずに発言できる、相手の話をよく聞き、考えを深める場をつくるための約束(ルール)です。事前に決めて模造紙に貼り出しておいたり、ファシリテーターが自己紹介しながら「皆さんにお願いしたいこと」、「答えは一つではないこと」、「言いたくないことは言わない自由があること」と説明しながらホワイトボードに書いて(または事前に模造紙に書いて)、ワークショップ開催中に、いつも目にするようにしましょう。

(例)

対等な関係をつくるため

- お互いに「○○さん」と呼びましょう ＊ファシリテーターも含みます。

話す、聞くに集中するため

- 相手の話は最後まで聞きましょう
- 相手の顔を見て話しましょう
- ここで聞いた話を外には持ち出しません

思い込みをやぶるため

- 自由な発想で話しましょう
- 最後まであきらめないで話しましょう

ワークショップでは、参加者がお互いの発言を大切にします。批判や個人攻撃をしてはいけないこと、お互いの発言を受けとめることを参加者に理解してもらいましょう。

以下は、ファシリテーターが守ることです。＊これは参加者に伝えなくてよい。

- 時間厳守
- 誰かを特別扱いしない
- ファシリテーターも約束を守る

ワンポイントアドバイス

リラックスした場のつくりかた

参加者がまっすぐ前を向いて座っている教室に、前の扉から入り全体を見渡して挨拶…相手陣地に入り込んだようですね。これではお互いに緊張してしまいます。できれば、時間の余裕をもって、開始前の休み時間には教室に入り、自分の家に参加者が帰ってくるのを待っていたかのように「こんにちは」「元気でですか?」と迎えます。場づくりがもう始まっています。ファシリテーターがリラックスすれば、参加者もやがてリラックスします。ファシリテーターの個性に合わせた場づくりをしてみましょう。

タイトル 人権ワークショップ ～リスペクタザースを見て考えよう

テーマ・目標



- 「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品を題材にしたビデオ『リスペクタザース』を視聴し、参加する中学生が、自分の「人権」、他者の「人権」について理解を深めていく。
- お互いの違いを認め、他者を尊重することが、人権が尊重される社会の実現につながることに気づくよう促す。

平成25年度人権啓発ビデオ「わたしたちの声 3人の物語」の中から『リスペクタザース』を題材にしたワークショップ。

対象者／人数

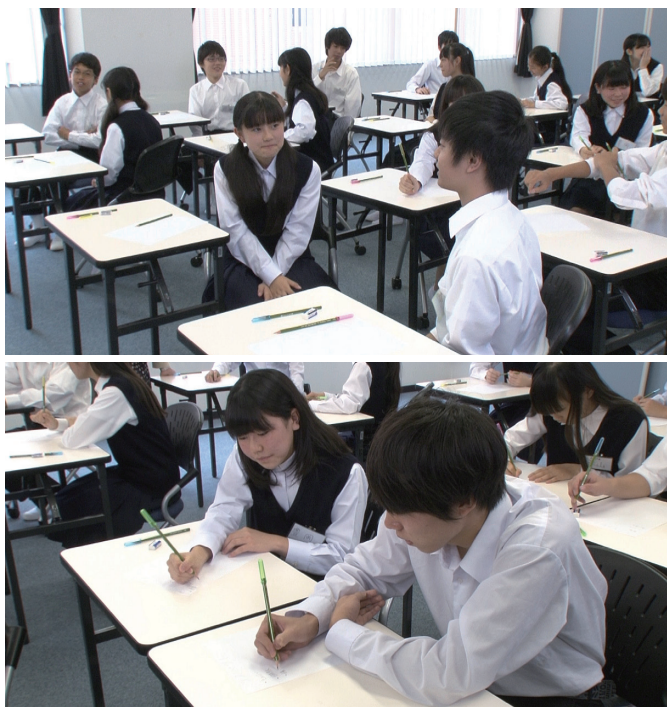


〇〇中学校1年2組
〇〇人

日程・時間／場所



平成〇年〇月〇日 3時限目(50分)
〇〇中学校1年2組 教室

時間	ねらい	場面／アクティビティ／問い	場の設定
1 5分	本日のテーマに入りやすくする。 リスペクトの意味を考える。	オープニング(導入)「チェックイン」 →P21参照 問い「リスペクト」という言葉からイメージする単語を隣の人と話し合いながら、3分間で自分のワークシートに3つ以上、書き出してみましょう」 ●ファシリテーターの挨拶(2分)、チェックイン(3分)の順に行う。 	教室型でスタートする。 挨拶の後にワークシート(A4白紙一人1枚)を配布する。 *ワークシートは回収しない。

内容詳細・進行の仕方・ファシリテーターの言葉・気をつけたいこと など

タイトルに工夫をしてみましょう。

「お互いに大切にしたいこと」「一人ひとり」「自分らしく」など、人権という言葉を使わないで興味を持たせるタイトル。
「お互いの人権を尊重しよう」「相手のことを大事に考えよう」など、直接的な言葉で目的を理解させるタイトル。
「respect」「リスペクトしてる?」「リスペクタザースって何だ」などリスペクトという単語に興味を持たせるタイトル。

中学1・2年生では「リスペクト」という言葉を知っている人、知らない人がいますが、ここではまだ意味を伝えなくてよいでしょう。DVDを視聴することで、生徒たちが言葉の意味を理解し、自分も「リスペクタザース」という考え方を持つ必要性に気づいてもらうことが目的だからです。

「アザース」という単語もまだ学習していない場合は、「他者」「他の人」のこと、と説明しておくといよいでしょう。高校生になると「〇〇をリスペクトする」など、日常会話の中で使っています。これは「とても好きだ」「認めている」「尊敬している」「懂れている」という意味で、人権を意識して使っているわけではありません。

「チェックイン」は、参加者がワークショップに入りやすくするためのウォーミングアップです。短時間でひとり一言を発する程度です。グループになっても隣のひとと2人、または3人で、と少人数で言葉を交わします。今回のワークショップのテーマに関連しつつ難しくない話題を与えて参加者が発言しやすい工夫をします。＜ワーク(展開)2＞のアクティビティ「ワールドカフェ」の練習の意味もあるので、ここでは話しながら「書き出す」という手法を加えています。また、「3つ以上書き出す」と数を指定することで、参加者が主体的に考え、参加するための動機づけになります。

(例)「皆さん、こんにちは。ファシリテーターの〇〇です。ファシリテーターというのは、このワークショップを進行する司会者のことです。今日は、『リスペクトって何だろう?』というテーマで皆さんとリスペクトの意味について考えていきます。DVDを見てから、ワークショップを進めていきます。

では、初めに『チェックイン』という短い活動をししましょう。これから3分間で、隣のひとと「リスペクト」という言葉からイメージする単語を話し合います。そしてお配りしたワークシート(A4白紙)に3つ以上、書き出してください。皆さんは「リスペクト」という言葉を聞いたことがありますか? 使ったことがありますか? 何を連想しましたか? あなたが思いついたことを隣のひとと話し合いながら、ワークシートに書いてくださいね。では、スタートしましょう!

(3分程度時間がたったら「チェックイン終了です」と伝えます)

「チェックイン」でどんな言葉が出たか、いくつか発表してもらいましょう。

『リスペクタザース』では、DVD視聴後に「リスペクト」に対するイメージが変化することがポイントです。ここで発表した言葉を黒板に書き出し、スペースがあれば消さずに残しておき、ふりかえりの際にそれを提示しながら意見を求めるとよいでしょう。

参加者が初対面(新学期の頃)の場合、コミュニケーションを図るために、グループ分けや会場設営をワークショップの時間内に行うこともあります。

学校では前後左右の机をつけて4人(6人)のグループをつくることに慣れています。クラスの人数によっては5人グループ、7人グループができる場合もあります。奇数になった場合は、「隣のひとと話す」ときに3人組をつくります。このテキストでは、DVD視聴後、「では6人グループをつくって島型に机を配置して座りましょう」と次のアクティビティのための環境をつくります。

ワークショップの実施例

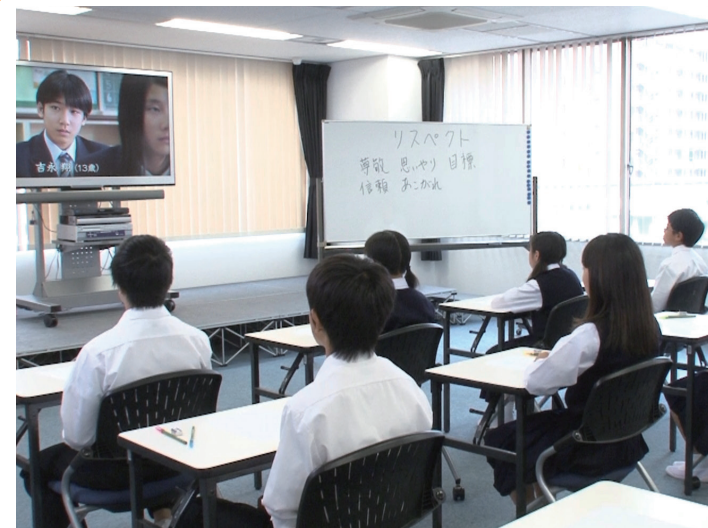
	時間	ねらい	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
2	15分	共通の情報を得る。 “リスペクトアザース”という言葉を理解する。	ワーク(展開)1「DVD視聴」 問い「皆さんと同じ中学生が書いた作文をもとにつくったDVDです」 ●DVDを視聴する。「全国中学生人権作文コンテストに参加したことがありますか?」と問いかける。学校によっては夏休みの宿題として積極的に参加している場合も、まったく存在を知らない場合もある。事前の学校との打ち合わせで把握しておくとい。あまり説明をしないでDVDを見せる。	DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい。 太陽の反射で画面が見えにくならないようにテレビの向きに配慮する。
3	20分	自分の気持ち、考えを整理する。 他者の気持ち、考えを聞く。 意見交換を通して「お互いの人権」について理解を深める。	ワーク(展開)2「ワールドカフェ」 →P28～29参照 問い「今のDVDの内容を整理します。吉永翔さんは日本とアメリカの文化の違いを感じて、日本での学校生活が嫌になっています。そんなとき、アメリカの友達が“リスペクトアザース”という言葉を出させてくれました」とDVDの内容を簡単にまとめるとよい。(2分程度) 「これからワールドカフェというグループでのおしゃべりで、DVDを見て感じたこと、考えたことを自由に話し合います」 ●1回8分。2回目はグループの半分のメンバーの入れ替えを行い、別のグループに移動させて、テーマを変えて行う。 ●ワークショップでは、参加者の自発的な発言や行動を大切にします。その中には「発言したくない」「発言できない」という場合もあるので、「発言したくない人は無理に言わなくてよい」とあらかじめ伝えておく。	6人の島型に配置換えをし、着席する。 *事前に担任に6人のグループ分けを依頼しておくとい。 模造紙、マジックを配布する。 黒板にDVD登場人物の名前や顔写真(大きくコピー)を貼る(または、登場人物の名前を書き出す)。 *付属DVDの資料集に「登場人物の顔写真」がありますので活用ください。



内容詳細・進行の仕方・ファシリテーターの言葉・気をつけたいこと など

🔊「見える位置に移動してください」と声をかける

(例) 🔊「全国中学生人権作文コンテストに参加したことがありますか? (参加したことがある、ない、の反応を見て) 皆さんと同じ中学生が人権について考えたこと、感じたことを表現した作文のコンテストです。コンテストの入賞作品をもとにつくった物語をDVDにしました。『リスペクトアザース』というタイトルで、15分の作品です。では、見てみましょう」



ワールドカフェでDVDを視聴した感想を言葉にします。

<進行>

(1) ワールドカフェは、ファーストフード店で友達とおしゃべりするような雰囲気、自由な言葉、本音の言葉を出せるグループ討議です。

(2) (例) 🔊「いまのDVDを見た感想や、どんな気持ちになったかを話し合ってみましょう。おしゃべりなので、グループ内に司会者はいりません。模造紙には自由に言葉を書き残してください。話しながら自分で書くよりも、誰かの話を聞いて気になる言葉を書いたり、自分ならこうだな、という気持ちを書いたりします。イラストやマークで表現してもいいですよ。書いたものを見て、また発言してもかまいません。ただし、反論やひやかしは避けてください。これから約8分間で行います」(2分)

(3) (例) 🔊「では、1回目のワールドカフェです。最初は、吉永翔さんの立場になって気持ちの変化や何を考えていたかを言葉にしてみましょう。模造紙の中央にどなたか代表して1回目のテーマ、“翔の気持ち”と書いてください。時間になったら、私から合図をします。それでは、ワールドカフェ、スタート!」(1回目8分)

※8分が長ければ、5～6分の時間で設定し、状況をみて時間を増やしてもよい。

(4) 8分経過

(例) 🔊「ワールドカフェ1回目、終了します」「自分の気持ちを言葉にできましたか?それを文字に残せましたか?」「では、2回目のワールドカフェです。今度はグループの半分のメンバーを入れ替えます。グループでジャンケンをして負けた半数の人はそのままグループに残って、勝った方の半数の人は右回りにグループを移動してください。(移動2分)

メンバーが変わりました。2回目はこのメンバーです。

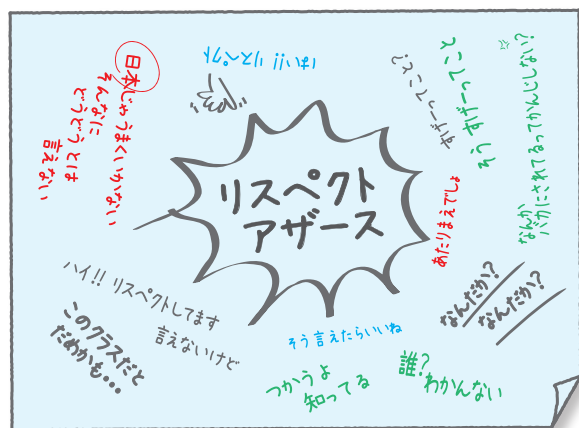
さて、リスペクトアザースとはどんな意味でしたか? あなたは、リスペクトアザースが意味することを意識したことがありますか?

テーマはリスペクトアザースです。この言葉を聞いて、思ったこと、感じたことを自由に話してください。模造紙のどこかに“リスペクトアザース”と書いてください。ワールドカフェ、2回目のスタート!」(2回目8分)

(5) 8分経過 🔊「ワールドカフェ2回目、終了します」

ワークショップの実施例

- 模造紙に記入ができないようであれば、グループを回り、発言を聞いて、ファシリテーターが模造紙に何か書いてみせる。短い言葉（「それ、いいね」「リスペクトってなんだ？」など。）またはスマイルマークなどイラストでもよい。



サンプル模造紙

ワールドカフェのサンプル模造紙を見せたり、貼り出す（黒板に模造紙の記入の仕方を例示すると理解しやすい）。

グループ替えでは、移動するメンバーの決め方や、移動方法を具体的に指示すると、参加者は移動しやすい。

内容詳細・進行の仕方・ファシリテーターの言葉・気をつけたいこと など

模造紙はグループに1枚。マジックは一人1本。色はバラバラでもよい。色に意味を持たせないが、黒は気持ち、赤は疑問、青は反論など自然に区別する書き方をする場合もある。そのまま書かせてもよい。1枚の模造紙の中で、参加者自身の言葉でテーマに関連した思いの書き込みが展開していく。



時間	ねらい	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
4 10分	クラス全体の模造紙を見ることで、さらに「自他の意見を尊重する」「思ったこと、考えたことを表明することが大切」であることに気づき、テーマへの理解が深まる。	クロージング(まとめ)「展覧会」 →P34参照 問い「他のグループの模造紙を見ていきましょう」 ●付箋紙を持たせ、気になる言葉、好きな言葉に付箋紙を貼らせてもよい。展覧会(5分)、ファシリテーターのまとめ(5分)の順に行う。 ●一つの結論に導くようなまとめの言葉は避ける。 ●ファシリテーターのまとめは模造紙の中の言葉を使って、参加者の気持ちに寄り添うように伝える。	席を立ち各グループの模造紙を見に行く



準備物：

DVDが視聴できる環境、DVD登場人物の写真、チェックイン用のワークシート(A4白紙人数分)、模造紙、マジック人数分(色はバラバラでもよい)、付箋紙、マグネットまたはセロハンテープ

(例) ◀▶「皆さん、自分の考えや、気持ちを話し合ったり、模造紙に書けましたか？ それでは最後に、模造紙の展覧会をしましょう。立ち上がって他のグループの模造紙を見てきましょう」「気になる言葉に付箋紙を貼ったり、付箋紙に感想を書いて貼っていきましょう」

このアクティビティでは、DVD視聴やワールドカフェをふりかえり、「リスペクトアザース」について自分の考え、他者の考え、共通の考えがあることを再確認する。3分程度展覧会をしたら元の席に戻る。

(例) ◀▶「今日は、『リスペクトアザース』というDVDを見ました。最初は「リスペクト」の意味を尊敬や憧れという芸能人やスポーツ選手など、特別な人への感情だと思っていた人もいましたね。DVDの後の、ワールドカフェの感想にも「お互いを認め合いたい」「目立つのは嫌だ」(模造紙から言葉を拾って)という言葉が出ていました。「どうやってリスペクトするのか?」という疑問もありました。身近な友達や家族などでもお互いのよいところを認めあうこと、それが「リスペクト」です。相手の「人権」を尊重することです。皆さんの心の中にリスペクトアザースという思いをどうしたら持てるのか、どうぞ、考えてください」(時間があれば) ◀▶「最後に隣の人に、リスペクトする気持ちを伝えてみましょう」「言葉ではなく、信頼の気持ちを込めた握手でもよいと思います。お互いにお互いを認めあう気持ち、大切に思う気持ちを持てるといいですね」「これでワークショップを終わります」

最後は、一緒にワークショップを行った仲間として、お互いにお礼を込めてあいさつをして終了する。

DVDが視聴できる環境は、あらかじめ確認しておく。

*DVD「わたしたちの声 3人の物語(リスペクトアザース)」は、人権ライブラリー(TEL 03-5777-1919)で貸出しています。また、You Tubeの法務省チャンネルでもご覧いただけます。

番号	場面	アクティビティ名	難易度	区分	時間	人数	場の設定	掲載ページ
①	オープニング (導入)	チェックイン	初級	汎用	5分程度	制限なし	教室型	P14～15, P21, P40～41
②	オープニング (導入)	相手のよいところ さがし	初級	汎用	5分程度	4～6人 グループ	4～6人の 島型	P21, P38～39
③	オープニング (導入)	インタビュー	初級	汎用	10～15分 程度	制限なし	2人ペア→ 6人の島型	P21, P36～37
④	ワーク (展開)	あなたはどこに 立ちますか?	初級	子どもの権利	30分程度	制限なし	椅子なし型	P22～23, P36～37
⑤	ワーク (展開)	一歩前へ進め	中級	人権全般	25分程度	制限なし	椅子なし型	P24～25, P38～39
⑥	ワーク (展開)	男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?	中級	女性 (ジェンダー平等)	25分程度	各グループ 6人程度	椅子なし型	P26～27, P40～41
⑦	ワーク (展開)	ワールドカフェ	初級	汎用	20分程度	制限なし	6人の島型	P16～19, P28～29, P38～39
⑧	ワーク (展開)	ロール・ディベート (役割討論)	中級	汎用	25分程度	制限なし	椅子だけ, グループを 半分に分ける	P30～31, P40～41
⑨	ワーク (展開)	ジョハリの窓	中級	汎用	30分程度	制限なし	6人の島型	P32～33, P40～41
⑩	クロージング (まとめ)	沈黙	初級	汎用	1～3分 程度	制限なし	教室型	P34, P36～37
⑪	クロージング (まとめ)	チェックアウト	初級	汎用	5～10分 程度	制限なし	教室型	P34, P40～41
⑫	クロージング (まとめ)	展覧会	中級	汎用	5～10分 程度	制限なし	島型で 歩き回る	P18～19, P34, P38～39

* 表の「区分」で「汎用」と示しているアクティビティは、個別の人権課題だけでなくテーマや目標にあわせていろいろな使い方ができます。

① チェックイン

難易度 初級

区分 汎用 時間 5分程度

人数 制限なし 場の設定 教室型

目的 ●参加者の気持ちをリラックスさせる, 気持ちを切り替えるなどワークショップを開始するときに行う。

準備物 ●特になし

進行 ▶ P14～15「ワークショップの実施例」／P40～41「プログラム例③」参照

- ① テーマについて自由におしゃべりする。隣の人と2人1組, グループ全体でと, 様々な組み合わせで進行できる。
- ② テーマは「今の気持ち」やワークショップの内容に合わせてもよい。3つ以上考えてくださいと具体的に数を指定することで, 参加者が主体的に考え, 参加するための動機づけになる。



* テーマ例

「人権(学校・友達・バリアフリー等)」という言葉から連想すること

「最近あった嬉しかったこと」「いま, 一番欲しいもの」

* プログラムの構成によっては, 考えたことをワークシートに書き出すと効果的。

② 相手のよいところさがし

難易度 初級

区分 汎用 時間 5分程度

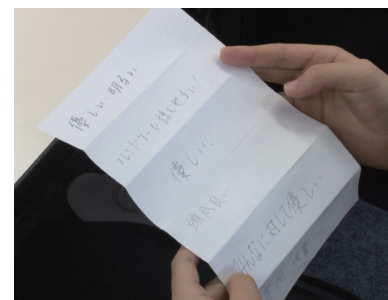
人数 4～6人グループ 場の設定 4～6人の島型

目的 ●参加者の気持ちをリラックスさせる, 気持ちを切り替えるなどワークショップを開始するときに行う。

準備物 ●A5白紙人数分(ワークシート), 筆記具

進行 ▶ P38～39「プログラム例②」参照

- ① 白紙を折って, 人数分の折り目をつけたら, 一番下に自分の名前を書いて, 右隣の人に渡す。
- ② 回ってきた白紙の一番上に「その人のよいところを1つ書いて」見えないように折り目で一折りする。その紙を, また右隣の人に渡す。2番目の人も折りこみのすぐ下に「よいところ」を書いて, 見えないように一折りし, グループ内を一周させる。
- ③ 全員から「よいところ」が書かれた紙が自分の手元に戻ってくる。



* 初対面同士の場合は, 「外見・声や印象などを書く」とよい」とアドバイスする。

③ インタビュー

難易度 初級

区分 汎用 時間 10～15分程度

人数 制限なし 場の設定 2人ペア→6人の島型

目的 ●入学直後, 新学期直後などクラス内のコミュニケーションが十分でない時期に行うと効果的。

準備物 ●A4白紙人数分(ワークシート), 筆記具

進行 ▶ P36～37「プログラム例①」参照

- ① 2人1組で2分間のインタビューをする。相手の名前, 好きな食べ物, 趣味・特技, 最近あった嬉しかったことなど相手の情報を聞いていく。例示して, ある程度限定するとよい。他人に知られたくないことは, 話さなくてもよい。2分たったら聞き手と話し手を交代する。(2分×2回=4分)
人数が奇数の場合は, クラス担任が入りペアをつくとよい。
- ② 4人か6人のグループをつくる。インタビューで聞いたことをもとに, ペアの相手のことをグループのメンバーに他己紹介する。印象に残ったことを30秒で伝えるなど, 時間を区切るとよい。(1分×6回=6分)



4 あなたはどこに立ちますか？

難易度



初級

区分

子どもの
権利

時間



30分程度

人数



制限なし



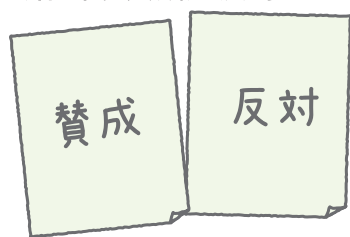
椅子なし型

目的

- 賛成、反対を自分で判断する。
- 賛成や反対した項目と子どもの権利・人権の関わりに気づく。

準備物

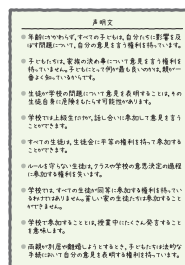
- 貼り紙：賛成／反対



- マグネットまたはセロハンテープ



- 声明文
(ファシリテーター
手持ち用)



進行(20分程度)

▶ P36～37「プログラム例①」参照

- 机や椅子がない状態で行う。向かいあった壁に「賛成」「反対」と書いた紙を貼っておく。
- ① ファシリテーターが声明文を読み、参加者たちはその内容に賛成か反対かを決定し、「賛成」「反対」と書いた紙が貼ってある方のどこかに立つ。
- ② 約束「自分で決める」「相談しない」ことを約束する。
- ③ 大きく賛成ならば「賛成」の紙の近くに、少し賛成ならば離れる。自分の気持ちを距離で表す。決定できないときには、中央付近に留まることもできる。
- ④ 「なぜ賛成か」「なぜ反対か」を何人かに聞く。その意見を聞いて「移動」したくなったら移動してもよい。
- ⑤ すべての声明文で①～④を繰り返す。



ふりかえり(10分程度) ふりかえりは、クロージングのアクティビティ(沈黙やチェックアウトなど)で行ってもよい。

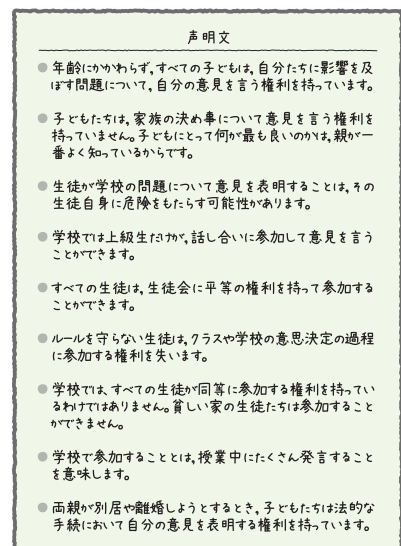
- ① ◀「自分が立つ位置を決めるのが難しかった声明文はありましたか？」
- ② ◀「あなたは自分の家族における意思決定に参加できますか？」
◀「学級や学校における意思決定ではどうですか？」
- ③ 意見を表明したり、意思決定に参加することはすべての子どもの大切な権利であることを伝えて、「児童の権利条約」第12条を読んで聞いてもらう。
◀「あなたが今後の意思決定に参加できると思う場面があるか想像してみてください。」

声明文(サンプル) *ファシリテーター手持ち用

- ◀「年齢にかかわらず、すべての子どもは、自分たちに影響を及ぼす問題について、自分の意見を言う権利を持っています。」
- ◀「子どもたちは、家族の決め事について意見を言う権利を持っていません。子どもにとって何が最も良いのかは、親が一番よく知っているからです。」
- ◀「生徒が学校の問題について意見を表明することは、その生徒自身に危険をもたらす可能性があります。」
- ◀「学校では上級生だけが、話し合いに参加して意見を言うことができます。」
- ◀「すべての生徒は、生徒会に平等の権利を持って参加することができます。」
- ◀「ルールを守らない生徒は、クラスや学校の意思決定の過程に参加する権利を失います。」
- ◀「学校では、すべての生徒が同等に参加する権利を持っているわけではありません。貧しい家の生徒たちは参加することができません。」
- ◀「学校で参加することとは、授業中にたくさん発言することを意味します。」
- ◀「両親が別居や離婚しようとするとき、子どもたちは法的な手続において自分の意見を表明する権利を持っています。」

* 声明文のサンプルは、クラス担任との事前の打ち合わせで、生徒の状況に応じて、選択・修正してください。

* 付属DVDの資料集に、「声明文」「貼り紙」のサンプルがありますのでご活用ください。



児童の権利条約 第12条

- ① 締約国は、自己の意見を形成する能力のある児童がその児童に影響を及ぼすすべての事項について自由に自己の意見を表明する権利を確保する。この場合において、児童の意見は、その児童の年齢及び成熟度に従って相応に考慮されるものとする。
- ② このため、児童は、特に、自己に影響を及ぼすあらゆる司法上及び行政上の手続において、国内法の手続規則に合致する方法により直接に又は代理人若しくは適当な団体を通じて聴取される機会を与えられる。

出典：Adapted from the The European Convention on Human Rights, Standpoints for Teachers, Mark Taylor, Council of Europe, 2002.
『コンパシット【羅針盤】子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』(公益財団法人人権教育啓発推進センター、2009年) P68～P71を引用し改編

5 一歩前へ進め

難易度



中級

区分



人権全般

時間



25分程度

人数



制限なし

場の設定



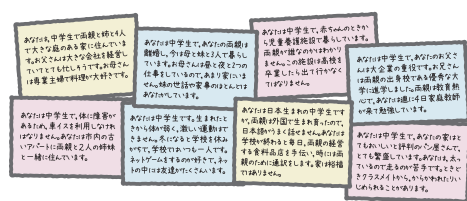
椅子なし型

目的

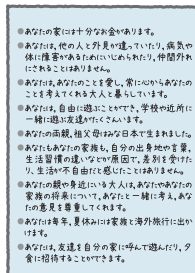
- 自分とは異なっている他者に対する共感を促進する。
- 社会における機会の不平等,差別について意識を高める。

準備物

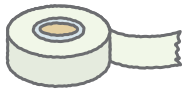
- 役割カード
(一人1枚持つ,グループ数用意)



- 状況のリスト
(10パターン程度用意,
ファシリテーター手持ち用)



- スタート位置の
床に貼る白いテープ
(はがしやすく,
跡が残らないもの)



進行(15分程度)

▶ P38～39「プログラム例②」参照

- 机や椅子がない状態で行う。あらかじめ、床にスタート位置の白いテープを貼っておく。

- ① グループに役割カードを配布し、一人1枚持つ。

▶「他の人に見せてはいけません。」

Point

役割カードの内容は、参加者が受け止められる内容にする。事前にクラス担任と、一人親家庭、外国籍、いじめなどについて情報交換をしておくとうい。

- ② ▶「役割カードの人物をイメージし、想像をはたかせ、その人物になりきります。誰かと相談してはいけません。イメージできない場合は手を上げて、ファシリテーターからヒントをもらってもよいです」

- ③ 全員スタート位置に立つ。

- ④ ファシリテーターが「状況」を読み上げ、それは自分の役割カードのことだと思ったら一歩前に出るように伝える。(動きが出るまで、少し時間を与える。誰も動かない場合もあるが、無理に動かせない。テンポよく)

Point

状況は、参加者たちが想像できる範囲で設定するとよい。一歩前に出ることができる、できないに差が出た方が、「違い」に気がつきやすい。

- ⑤ 動きが出たら周囲を見渡して誰が動いたか、動かないかを皆で確認する。



- ⑥ 状況の読み上げ(③～⑤)が終わったら、数人に感想や自分の役割を聞いてみる。

続いて、役割カードを読み上げ、自分はどの役割だったか手を上げてもらう。

Point

同じ役割でも立っている位置が違う場合もあります。



ふりかえり(10分程度)

- ⑦ 同じ役割カードのメンバーで集まり、ふりかえりを行う。参加者がふりかえりやすいように、ファシリテーターから問いかけを行う。

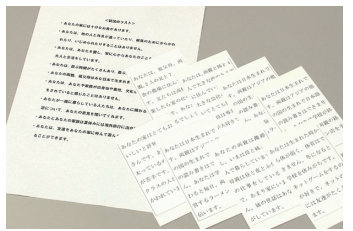
▶「同じ役割カードのメンバーで意見交換をしてください」

▶「あなたの役割はイメージしやすかったですか？」

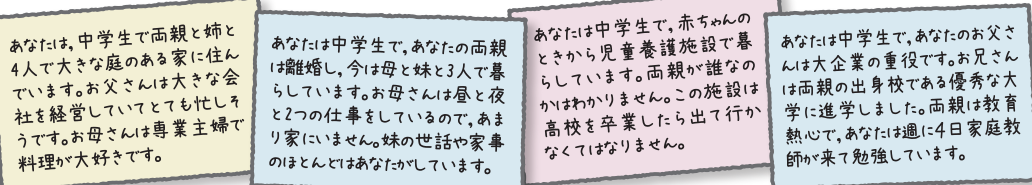
▶「どの状況の時に一歩前に出ましたか？ 出ることができませんでしたか？」

▶「状況を聞いて、なにか不公平なことがあったと感じましたか？」

▶「このアクティビティで起こったことは、現実の世界でも起きていると思いますか？」



役割カード(サンプル) *参加者に配布用,名刺大のカードでつくるとよい



*役割カードの内容に「離婚」「外国籍」「病弱」など、実際に該当する生徒が在籍する場合もあります。クラス担任との事前の打ち合わせで、その「役割カード」を使わないなどの配慮が必要です。

状況のリスト(サンプル) *ファシリテーター手持ち用

- あなたの家には十分なお金があります。
- あなたは、他の人と外見が違っていたり、病気や体に障害があるためにいじめられたり、仲間外れにされることはありません。
- あなたは、あなたのことを愛し、常に心からあなたのことを考えてくれる大人と暮らしています。
- あなたは、自由に遊ぶことができ、学校や近所に一緒に遊ぶ友達がたくさんいます。
- あなたの両親、祖父母はみな日本で生まれました。
- あなたもあなたの家族も、自分の出身地や言葉、生活習慣の違いなどが原因で、差別を受けたり、生活が不自由だと感じたことはありません。
- あなたの親や身近にいる大人は、あなたやあなたの家族の将来について、あなたと一緒に考え、あなたの意見を尊重してくれます。
- あなたは毎年、夏休みには家族と海外旅行に出かけます。
- あなたは、友達を自分の家に呼んで遊んだり、夕食に招待することができます。

*「役割カード」や「状況のリスト」は参加者の状況に応じて、適宜修正・作成してください。

*付属DVDの資料集に、「役割カード」・「状況のリスト」のサンプルがありますので活用ください。

出典: Adapted from COMPASS: A Manual on Human rights education with Young People (Council of Europe, 2002), p.217.

『コンパシット【羅針盤】子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』(公益財団法人人権教育啓発推進センター, 2009年) P80～P86を引用し改編

6 男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?

難易度



中級

区分

女性
(ジェンダー平等)

*注

時間



25分程度

人数

各グループ
6人程度場の
設定

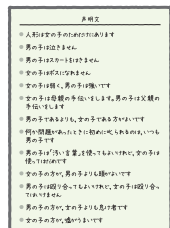
椅子なし型

目的

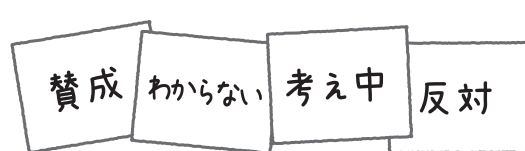
- ジェンダーへの先入観やジェンダー平等について考える。
- 寛容性の促進。
- 先入観や思い込みがどのように差別を生み出すか気づく。

準備物

- 声明文
(ファシリテーター
手持ち用)



- 貼り紙：賛成／わからない／考え中／反対
それぞれの貼り紙を部屋の四隅に貼っておきます。



- マグネットまたは
セロハンテープ

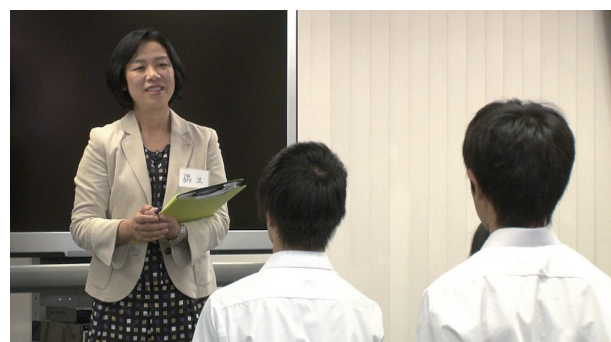


*注 ジェンダー:「社会的・文化的に形成された性別」のこと

進行(20分程度)

▶ P40~41「プログラム例③」参照

- 机や椅子がない状態で行う。
 - 1 部屋を4つのコーナーに分ける。それぞれのコーナーに、賛成／わからない／考え中／反対、と書かれた紙を貼る。
 - 2 声明文を読み上げる。参加者たちは自分が賛成か、反対か、わからないか、まだ考え中であるかにより、コーナーに移動する。
 - 3 各コーナーにいる参加者たちに、なぜそこを選んだのか聞いていく。
 - 4 以上の②③をいくつかの声明文について同じことを繰り返す。(各声明文2分×5回=10分)
 - 5 各コーナーに集まったグループで、このアクティビティで行ったことについて話し合う。(グループで10分程度)
- ▶「このアクティビティで何かびっくりしたことがありましたか？」
- ▶「それぞれの声明について、みんなの選んだコーナーが違うのはなぜ？」
- ▶「どのコーナーに立つのが“正しい”と、どうして考えられますか？」



問いかけ ～ファシリテーターからの問いかけ(5分程度)

- ▶「男子と女子に対して異なる規則や役割がありますか？ 教室や学校ではどうでしょう？ 家庭内ではどうでしょう？ それらは道理にかなっていると思いますか？」
- ▶「男性、女性はどうあるべきかの考え方は、皆さんだけでなく、大人にも影響を与えるでしょうか？」
- ▶「男子や女子が、自分が望むやり方でもっと自由に行動できるために、今後私たちにはどんなことができるでしょう？」



Point

プログラム全体の組み立てによっては
「ふりかえり」をワールドカフェなどの汎用型のアクティビティで行ってもよい

声明文(サンプル) *ファシリテーター手持ち用、この中の3~5つ程度を使用

- ▶「人形は女の子のためだけにあります」
- ▶「男の子は泣きません」
- ▶「男の子はスカートをはきません」
- ▶「女の子はボスになれません」
- ▶「女の子は弱く、男の子は強いです」
- ▶「女の子は母親の手伝いをします。男の子は父親の手伝いをします」
- ▶「男の子であるよりも、女の子である方がよいです」
- ▶「何か問題があったときに初めに叱られるのは、いつも男の子です」
- ▶「男の子は『汚い言葉』を使ってもよいけれど、女の子は使ってはダメです」
- ▶「女の子の方が、男の子よりも頭がよいです」
- ▶「男の子は殴り合ってもよいけれど、女の子は殴り合ってはダメです」
- ▶「男の子の方が、女の子よりも怠け者です」
- ▶「女の子の方が、嘘がうまいです」

*付属DVDの資料集に、「声明文」「貼り紙」のサンプルがありますので
ご活用ください。

声明文

- 人形は女の子のためだけにあります
- 男の子は泣きません
- 男の子はスカートをはきません
- 女の子はボスになれません
- 女の子は弱く、男の子は強いです
- 女の子は母親の手伝いをします。男の子は父親の手伝いをします
- 男の子であるよりも、女の子である方がよいです
- 何か問題があったときに初めに叱られるのは、いつも男の子です
- 男の子は「汚い言葉」を使ってもよいけれど、女の子は使ってはダメです
- 女の子の方が、男の子よりも頭がよいです
- 男の子は殴り合ってもよいけれど、女の子は殴り合ってはダメです
- 男の子の方が、女の子よりも怠け者です
- 女の子の方が、嘘がうまいです

7 ワールドカフェ

難易度 初級

区分 汎用 時間 20分程度 人数 制限なし 場の設定 6人の島型

- 目的
- 全員が自由に意見を言い、お互いの思いや考えを聞く。
 - 新たな気づきを得る。
- ※他のアクティビティと組み合わせて行うことができる。
(例) ジェンダーがテーマの場合 「男性らしさ、女性らしさって何だろう?」

- 準備物
- 模造紙
 - マジック人数分 (色はバラバラでもよい)
 - マグネットまたはセロハンテープ (使わない場合もある)

進行(7～20分程度)

▶ P16～19「ワークショップの実施例」／P38～39「プログラム例②」参照

1 ワールドカフェの進め方を説明する。

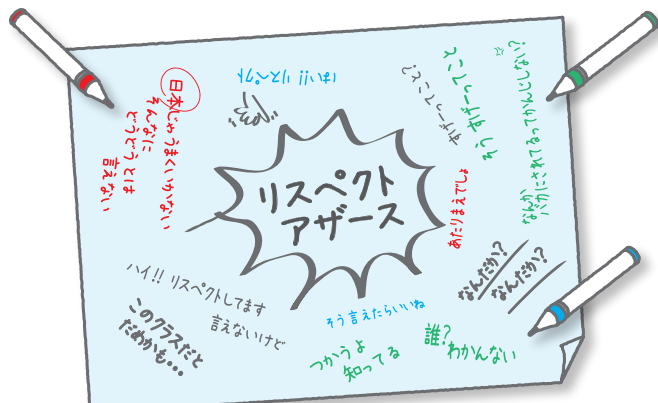
※参考として、書き込みされた模造紙のサンプルを見せると「ワールドカフェ」の理解がしやすくなる。

- 「ここは、自由におしゃべりができるカフェです」
- 各グループの机に模造紙をおき、一人1本マジックを持つ。
- 模造紙の中央に「テーマ」を大きく書く。(例)「男性と女性の違い」
- テーマに対して自分の意見をどんどん発言するよう声をかける。(司会や話す順番を決めなくてよい)。

※「批判をしない」「自由に話す」「質より量」を説明する。

- 誰かの発言を聞いて、気に入った言葉、気になった言葉を模造紙に書く。いたずら書き風に、あるいはイラストにしてもよい。

※進め方を口頭で説明するだけでなく、イメージが理解できるよう、模造紙のサンプルを用意しておく。



模造紙のサンプル



※付属DVDの資料集に、「サンプル模造紙」がありますのでご活用ください。

2 ワールドカフェ、スタート。

- 1回7～8分程度。時間になったら、終了の合図をする。7～8分が長ければ、5分程度の時間で設定しておき、状況を見て時間を増やしてもよい。
- 時間があればグループの半分のメンバーの入れ替えを行う。マジックを持って移動したら、2回目のワールドカフェをスタートする。テーマは同じでもよい。テーマを変える場合は、模造紙の空きスペースに新たなテーマを書き加えて行う。

※前の模造紙に書いてあることに質問があれば、1回目とそのグループにいた人が説明する

3 展覧会

- 全員で模造紙を見て回る。(P18・P34参照)



1回目のテーマ「翔の気持ち」、2回目のテーマ「リスペクトアザース」

ふりかえり(5～10分程度)

- 全員で展覧会をするときに「たくさんの言葉が出てきましたね」「気になった言葉、好きな言葉を見つけてください」など促す。

参考:「ワールドカフェ」Juanita Brown and David Isaacs, 1995年

参考:「ブレインストーミング法(BS法)」アレックス・F・オズボーン, 1953年



8 ロール・ディベート(役割討論)

難易度 中級

区分  汎用 時間  25分程度 人数  制限なし 場の設定  椅子だけ、グループを半分に分ける

目的 ● ワークショップのテーマを「賛成派」「反対派」または対立する2つの立場に分かれて意見を出し合う。
● いろいろな意見があることに気づき、他者の意見にも賛成したり、さらに他の考えを持つことができる。

準備物 ● ディベートのテーマにより「賛成」「反対」の貼り紙などを準備。

進行(20分程度)

▶ P40～41「プログラム例③」参照

- 1 ワークショップのテーマに合わせて、設定を設ける。
例えば、「女性が家事を行うのは当たり前」というテーマで、参加者をくじ引きなどで「賛成派」「反対派」の2グループに分ける。
- 2 または、対立する2つの立場の役割を設定する方法もある。例えば、「あなたは仕事と家事を両立させている女性です。夫が家事を行うのは当たり前だと思っています。」「あなたは仕事が多忙な男性です。妻が全ての家事を行うのが当たり前と思っています」という2つのグループに分けることができる。
- 3 クラス全体を2グループに分ける方法と、6人(できれば偶数)グループの中で2つに分ける方法がある。クラス全体で行うと発言内容をファシリテーターが全部確認できる。グループ単位で行うと1人の発言回数が増える。(司会者、書記を決めてもよい)
- 4 2つのグループに分かれて作戦タイムを設ける。賛成派・反対派(または設定の人物)として、自分たちの考えが正しいことを対立するグループの人に説得するため、どんな発言をするべきかグループ内で作戦を練る。「賛成・反対」の両方の考え方があり得るテーマを設定するとよい。ロール・ディベート(役割討論)は「賛成・反対(または設定の人物)」が本意でなくても、その役割になりきって、発言することが大切である。誰でも想像がついて、分かりやすい条件や設定を設けると、より自分の立場をイメージしやすくなる。



5 ディベートを開始する。

- 10分程度、ディベートの様子を見て「こんな気持ちで意見を出してください」「まだ発言していない人、次にしましょうか」など声をかけてもよい。
 - 口論(悪口、ケンカ腰、汚い言葉)が出てきたら「自由な意見と悪口は違う」「言葉でケンカしない」など過度にならないようサポートする。
 - グループ単位で進行している場合は、クラス内を回り、気になった言葉があればメモをして、ふりかえりのときに話してもよい。
- 6 1回目と逆の立場(賛成派は反対派へ、反対派は賛成派へ)で2回目のディベートをすると、より効果的なものになる。



ふりかえり(5分程度)

- 賛成派、反対派どちらが優勢だったか聞いてみる、またそれはなぜか聞く。
- 自分は「本当は賛成派(反対派)だった人」と挙手を促し、考えと違うことを話すのはどんな気持ちだったか聞いてみる。



9 ジョハリの窓

難易度



中級

区分



汎用

時間



30分程度

人数



制限なし



場の設定

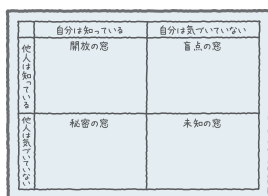
6人の島型

目的

- 自己理解を促す。
 - 多様な視点で考える。
- ＊初対面ではなく学年の途中など、ある程度お互いのことを知り合ってから行う。

準備物

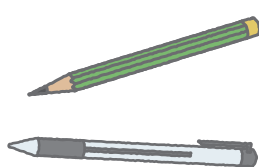
- ジョハリの窓シート(一人1枚)



- どんな人シート(一人1枚、グループの人数分の列をつくる)



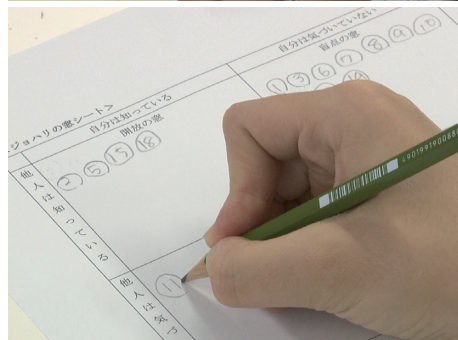
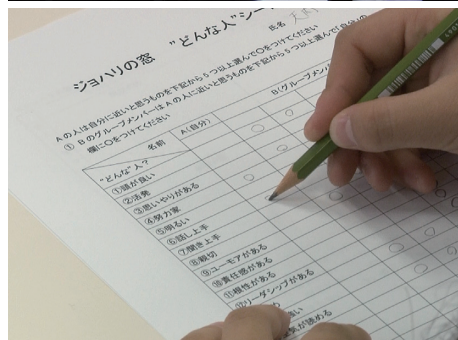
- 筆記具



進行(20分程度)

▶ P40～41「プログラム例③」参照

- 1 「ジョハリの窓シート」「どんな人シート」を配布し、「ジョハリの窓」について説明をする。
ジョハリの窓とは、自分が知っている自分、他人が知っている自分を4つの窓に分類することで自己分析できる、心理学ではよく使われている方法であることを説明する。(5分程度)
- 2 「どんな人シート」に自分の名前を記入し、右隣の人に渡す。
- 3 隣の人の「どんな人シート」を受け取ったら、そのメンバーが「どんな人だと思うか」その人に近いと思うものに○をつける(5つ以上)
- 4 書き終わったら右隣の人に渡し、次のグループメンバーについて○をつける(5つ以上)。同様に人数分繰り返す。
- 5 全て書き終わったら、各自の手元に自分の「どんな人シート」を戻す。最後に、自分の列の「どんな人だと思うか」について自分に近いと思うものを選んで、5つ以上○をつける。
- 6 自分のことが書かれた「どんな人シート」を見て、「ジョハリの窓シート」に次のような書き込みをする。
 - 自分が○、相手も○をつけた番号を「開放の窓」に書き込む。
 - 相手が○、自分が書いていない番号を「盲点の窓」に書き込む。
 - 自分が○、相手が書いていない番号を「秘密の窓」に書き込む。
 - 自分も相手も書いていない番号を「未知の窓」に書き込む。
- 7 番号の書き込まれた「ジョハリの窓シート」を見て、自己分析してみる。



問いかけ(10分程度)

- ▶ 「どの窓にたくさん番号が書き込まれましたか？それはなぜでしょう？」
- ▶ 「どの窓の番号を増やしたいですか？それはなぜでしょう？」

＊「ジョハリの窓シート」「どんな人シート」は回収しない。



ジョハリの窓シート(サンプル) ＊参加者に配布用

	自分は知っている	自分は気づいていない
他人は知っている	開放の窓	盲点の窓
他人は気づいていない	秘密の窓	未知の窓

どんな人シート(サンプル) ＊参加者に配布用

自分に近いと思うものを下記から5つ以上選んでください。
(○○さんに近いと思うものを下記から5つ以上選んでください)

- | | |
|----------|-------------|
| ①頭が良い | ⑪根性がある |
| ②活発 | ⑫リーダーシップがある |
| ③思いやりがある | ⑬まじめ |
| ④努力家 | ⑭忍耐強い |
| ⑤明るい | ⑮空気が読める |
| ⑥話し上手 | ⑯たくましい |
| ⑦聞き上手 | ⑰柔軟性がある |
| ⑧親切 | ⑱慎重 |
| ⑨ユーモアがある | ⑲感受性が強い |
| ⑩責任感がある | ⑳情報通 |

＊付属DVDの資料集に、「ジョハリの窓シート」「どんな人シート」のサンプルがありますので活用ください。

参考: Adapted from Joseph Luft and Harry Ingham, 1955.
"The Johari window, a graphic model of interpersonal awareness".
Proceedings of the western training laboratory in group development (Los Angeles: UCLA).

どんな人シート		氏名				
どんな人？	自分	グループメンバー				
		1	2	3	4	5
①頭が良い						
②活発						
③思いやりがある						
④努力家						
⑤明るい						
⑥話し上手						
⑦聞き上手						
⑧親切						
⑨ユーモアがある						
⑩責任感がある						
⑪根性がある						
⑫リーダーシップがある						
⑬まじめ						
⑭忍耐強い						
⑮空気が読める						
⑯たくましい						
⑰柔軟性がある						
⑱慎重						
⑲感受性が強い						
⑳情報通						

10 沈黙

難易度 初級

区分 汎用 時間 1~3分程度

人数 制限なし 場の設定 教室型

目的 ●各アクティビティのまとめ,ワークショップのまとめのときに気持ちを落ち着かせる,整理する,ふりかえるために行う。
●次のアクティビティの前に,気持ちを切り替えるために行う。

準備物 ●特になし

進行

▶ P36~37「プログラム例①」参照

- 1 全員,椅子に座る。
- 2 ファシリテーターが声をかけ,参加者がふりかえる。
「静かに深呼吸をして,目を閉じてください」「今日のワークショップをふりかえりましょう」「どんな気持ちでしたか,何か発見しましたか」
- 3 3分たったら「目を開けてください」と声をかける。
どんな言葉が浮かんだか,数名に聞いてもよい。
*3分の沈黙は長いと感じる場合は1分でもよい。



11 チェックアウト

難易度 初級

区分 汎用 時間 5~10分程度

人数 制限なし 場の設定 教室型

目的 ●ワークショップのふりかえりを行う,参加者の気持ちを落ち着かせるなど,ワークショップを終了するときに行う。

準備物 ●特になし

進行

▶ P40~41「プログラム例③」参照

様々な組み合わせで進行できる。

- 1 「テーマ」に対して何人かに感想を聞く。
- 2 2人1組,数人のグループなどで自由に感想を出し合う。
- 3 「ワークショップで感じたことを大切にしましょう」と締めくくる。



12 展覧会

難易度 中級

区分 汎用 時間 5~10分程度

人数 制限なし 場の設定 島型で歩き回る

目的 ●アクティビティのふりかえりや,結果を目で見て確認する。
●他グループの様子や多数の意見や考えを知ることができる。

準備物 ●アクティビティで作成した作品やワールドカフェの模造紙,付箋紙

進行

▶ P18~19「ワークショップの実施例」/P38~39「プログラム例②」参照

- 1 アクティビティ終了後に,作成した作品や書き込んだ模造紙を壁に貼り出したり,各グループの机の上に広げた状態にする。
- 2 「模造紙の展覧会をしましょう」と参加者に自由に見て歩くように勧める。
- 3 質問が出た場合に答える“説明員”をグループから一人残してもよい。
- 4 展覧会の感想を数名に聞き,ワークショップのまとめとする。



*ワールドカフェの展覧会は,マジックや付箋紙を持って,見ながら感じたことを模造紙に書いてもよい(マジックの壁うつりに注意)。

タイトル

テーマ・目標



対象者

人数



日程・時間

場所



	時間	ねらい	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
1				
2				
3				
4				
5				
準備物				

*ワークショップ実施の際に,コピーしてお使いください。本テキスト付属DVDの資料集にも「プログラムシート」がありますので活用ください。

プログラム例 ①

*ワークショップの実施時間には、30分、1時間といった決まりはありません。本書では、50分と100分で実施するプログラムを紹介しています。

タイトル あなたはどこに立ちますか？

テーマ・目標



- 賛成、反対を自分で判断する。
- 賛成や反対した項目と子どもの権利・人権の関わりに気づく。

対象者／人数



中高生／
40人程度

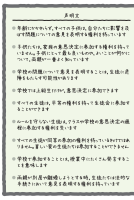
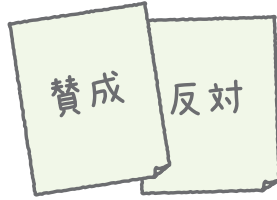
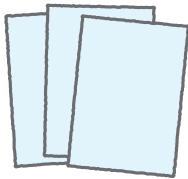
日程・時間／場所



50分／教室

準備物

- A4白紙人数分 (ワークシート)
- 貼り紙：賛成／反対
- 声明文



● 筆記具

- マグネット
または
セロハンテープ



ワーク(展開)1「あなたはどこに立ちますか？」



オープニング(導入)「インタビュー」



クロージング(まとめ)「沈黙」

	時間	ねらい	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
①	10分	場をつくる	オープニング(導入)「インタビュー」 →P21参照 ● ◀▶)「最初に2人ペアでインタビューを行います。2分たったら聞き手と話し手を交代してください」 ● ◀▶)「ペアの相手のことをグループ内のメンバーに他己紹介しましょう」	教室型 インタビューは2人ペアで行う ↓ 紹介は4～6人の島型で行う
②	30分	知識の確認 意思決定	ワーク(展開)1「あなたはどこに立ちますか？」 →P22～23参照 ● ◀▶)「賛成・反対の意思決定は自分でします。相談したりまわりに合わせる必要はありません」 ● ◀▶)「なぜ賛成しましたか？ なぜ反対しましたか？」 ● ◀▶)「他の参加者の意見を聞いて移動したくなったら動いていいですよ」 ● ◀▶)「どちらか判断できないのはどうしてでしょうか？」	机と椅子を教室の周囲に移動し、空間をつくる ↓ 教室の前に「賛成」後ろに「反対」を貼り、全員教室の中央に集まる ↓ 設問を聞いて「賛成」「反対」の位置に移動する
③	10分	ふりかえり	クロージング(まとめ)「沈黙」 →P34参照 ● ワークショップのふりかえりを自分の内側で行う。 ● ◀▶)「自分の立つ位置が難しかった声明文はありましたか？」(3分間) ● ファシリテーターのまとめ。「児童の権利条約第12条」を読み上げる。子どもには成長する権利と保護される権利があることも伝える。(7分間)	教室型に戻る
備考			賛成か反対か悩む人が多くならないように、答えがはっきり出やすい設問をいくつか入れるとよい。	

内容詳細：進行の仕方・ファシリテーターの言葉・気をつけたいこと

① インタビュー

- インタビュー内容は自由ですが、相手の名前、趣味・特技、好きなものなど相手の情報を聞いて、ワークシート(白紙)にメモをとる。他己紹介では、インタビューで印象に残ったことを30秒で伝えるなど、時間を区切るとよい。
*ワークシートは回収しない。

② あなたはどこに立ちますか？

- 声明文を読み上げ、参加者の移動はテンポよく進める。悩んで動けない参加者もいるので、様子を見ながら進行する。「1回パス」のルールをつくっておいてもよい。
- 声明文の内容はときどき「学校でおやつタイムがあるといい？」など楽しく賛成に動ける、「テストを毎日した方がいい？」など心情的には全員反対しそうな内容も入れてみる。参加者が動きやすい声明から始めて、段階的に、本来の人権内容につなげるとよい。
*付属DVDの資料集に「声明文」「貼り紙」のサンプルがありますのでご活用ください。

③ 沈黙

- 「あなたはどこに立ちますか？」のふりかえりとして「沈黙」を行う。子どもの権利についての声明文に対して、賛成・反対を決定したが、「沈黙」では、なぜ賛成・反対だと思ったか、なぜ迷ったのかなどを考えていく。沈黙は自分の気持ちや考えを整理する時間であると伝え、3分間実施する。長いと感じたら1分間でもよい。
- ファシリテーターのまとめとして、「あなたはどこに立ちますか？」で出た参加者の発言を引用しながら、子どもには成長する権利と保護される権利の両側面があることを話す。

タイトル 一歩前へ進め

テーマ・目標

- 自分とは異なっている他者に対する共感を促進する。
- 社会における機会の不平等, 差別について意識を高める。

対象者／人数



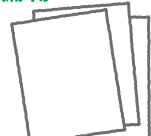
中高生／
40人程度

日程・時間／場所



50分／教室

準備物

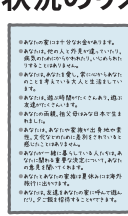


●A5白紙人数分
(ワークシート)

●役割カード



●状況のリスト



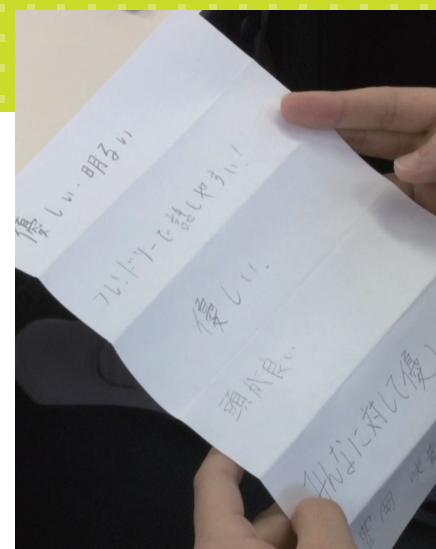
●模造紙



●筆記具

- 白テープ
- 付箋紙
- マジック
人数分

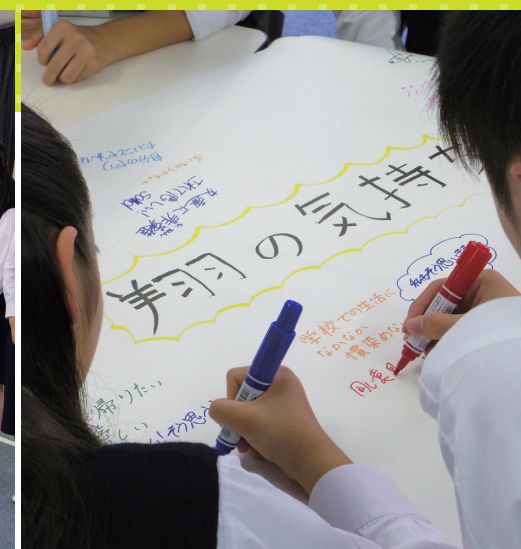
	時間	ねらい	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
①	5分	場をつくる	オープニング(導入)「相手のよいところさがし」→P21参照 ●「あなたは友達のことをどのくらい知っていますか?」	教室型 ↓ 6人(または4人)の島型で行う 白紙(ワークシート)を一人1枚配る
②	15分	知識の確認 意思決定	ワーク(展開)1「一歩前へ進め」→P24～25参照 ●「役割カードで自分ではない人を想像できましたか?」 ●「状況を聞いて、役割の人物だったら一歩前に動きますか?動けませんか?」 ●どうして動いたか、動けなかったか、数人に感想や自分の役割を聞いてみる。	机、椅子を教室周囲に寄せて空間をつくる ↓ 床にスタート位置を表す白テープを貼る ↓ 状況を聞いて一歩前へ移動する
③	20分	意見交換	ワーク(展開)2「ワールドカフェ」→P16～19, P28～29参照 ●島型に着席(1分) ●ワールドカフェの説明(2分) ●1回目のテーマ「役割カードの人物の気持ち」(7分) ●簡単に各グループの発表(2分) ●元のグループに移動(1分) ●2回目のテーマ「世の中にはどんな立場・状況の人がいる?」(7分)	同じ役割カードを持つ人で6人グループをつくり着席 ↓ 2回目は元の6人グループに戻り移動して島型で着席
④	10分	ふりかえり	クロージング(まとめ)「展覧会」→P18～19, P34参照 ●「自分のグループ以外の模造紙を見て感想を交換しましょう」	各グループの机に模造紙を広げて見て回る
備考			役割の設定のために、事前にクラス担任と情報交換をするとよい。	



オープニング(導入)
「相手のよいところさがし」



ワーク(展開)1
「一歩前へ進め」



ワーク(展開)2
「ワールドカフェ」

内容詳細：進行の仕方・ファシリテーターの言葉・気をつけたいこと

- 1 相手のよいところさがし**

 - 4人グループで実施してもよい。3人以下だと書いた人が限定されるので、あまり効果がない。
 - 「よいところ、たくさん見つけてもらいましたね」「よいところたくさん書きましたね」と盛り上げる。たくさん書いていない場合は、最後に「もっと相手のよいところを認めるためにも、お互いの人権を尊重したいですね」などと繋げてよい。
*ワークシートは回収しない。
- 2 一歩前へ進め**

 - 役割カードの意味が理解できない場合は、少しヒントを与える。そのときに他のメンバーに聞こえないように配慮する。
 - 同じ役割カードを持っている人が複数いるようにする。次の「ワールドカフェ」で、「同じ役割カードを持っているメンバー」で集まり、同じ立場でふりかえりを共有できる。
 - 役割カード、状況の内容は、参加者が受け止められ、想像できる範囲で設定するとよい。「離婚」「外国籍」「病弱」など、実際に該当する生徒が在籍する場合もあるため、クラス担任と事前に確認し、そのような役割カードを使わないなどの配慮が必要。
 - テンポよく進めるとよい。考え込んで動けない場合は「1回パス」というルールを追加してもよい。パスが多い状況になった場合は、内容の見直しをするとよい。
*付属DVDの資料集に、「役割カード」「状況のリスト」のサンプルがありますのでご活用ください。
- 3 ワールドカフェ**

 - 「一歩前へ進め」では、「役割カード」の人物の立場で様々な「状況」について考えたので、「ワールドカフェ」の1回目では、同じ役割カードを持っているメンバーで集まり、「役割カードの人物の気持ち」について意見交換し、気づきや考えを共有する。その後に、簡単に各役割のグループごとに発表するとよい。どんな立場の人がいたか全員で確認することができる。
 - 2回目の「ワールドカフェ」では、元のグループメンバーに戻り、いろいろな立場の人がグループにいたことを再確認しながら、「世の中にはどんな立場・状況の人がいる?」について考える。
 - 「ワールドカフェ」の模造紙のサンプルを例示として見せておくと分かりやすい。書き込むことができないグループにはファシリテーターが入り込み、発言を聞いて模造紙に書いて見せる。マジックはたくさん書いて見えるようにカラフルで太いものがよい。
- 4 展覧会**

 - 「展覧会」は、他のグループの書き込みを見て自分たちとは違う言葉、同じ言葉があることに気がつく。「説明員」をおいて、参加者からの質問に答えたり会話してもよい。

タイトル 男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?

テーマ・目標

- ジェンダーへの先入観やジェンダー平等について考える。
- 先入観や思い込みがどのような差別を生み出すか気づく。

対象者／人数

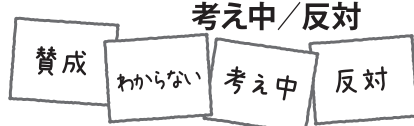
中高生／
40人程度

日程・時間／場所

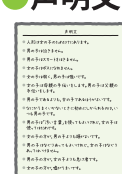
100分
(休憩10分あり)
／教室

準備物

● 貼り紙: 賛成／わからない／考え中／反対



● 声明文



● ジョハリの窓シート



● どんな人シート



● マグネットまたはセロハンテープ ● 筆記具

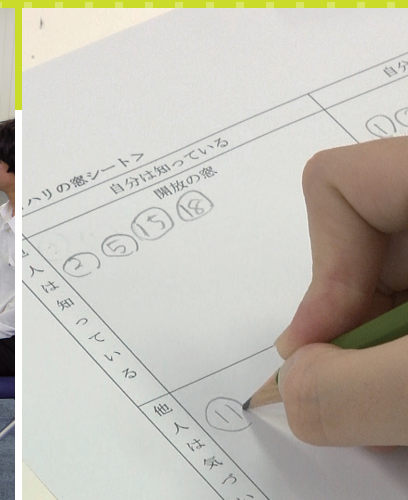
時間	ねらい	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
① 5分	頭をほぐす	オープニング(導入)「チェックイン」 →P21参照 ● ◀ 「男性でよかったこと、女性でよかったことは何ですか？」	教室型 2人ペアで行う
② 20分	知識の確認 意思決定	ワーク(展開)1 「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?」 →P26～27参照 ● ◀ 「4つのコーナーにバラバラになりましたが、どうしてでしょうか？」 ● ◀ 「そのコーナーに立つことが正しいとどうして決めたのでしょうか？」	教室中央に空間をつくる 教室の4つのコーナーに貼 り紙をする。全員教室の中 央に集まる ↓ 設問を聞いて4つの位置に 移動する
③ 25分	考察 他者意見	ワーク(展開)2 「ロール・ディベート(役割討論)」 →P30～31参照 ● 「家事をするのが女性の役割か」について、対立する2つ の立場の設定を設ける。 ● 6人グループを3対3の2つに分ける。作戦タイムを設けた 後、3対3でディベートを行う。 ● 簡単にふりかえりを行う。	教室の前後に椅子だけ 6人グループを3対3の2つ に分ける 設定は分かるように黒板 に書き出す
④ 10分	休憩		
⑤ 30分	自己理解	ワーク(展開)3 「ジョハリの窓」 →P32～33参照 ● 自分らしさとは何だろうか、自分が知っている自分と他者 から見える自分の相違を知ろう。	机を入れて、6人の島型で 着席 ジョハリの窓シート、どん な人シートを配布 ＊2つのシートは回収し ない。
⑥ 10分	ふりかえり	クロージング(まとめ)「チェックアウト」 →P34参照 ● ◀ 「今日のワークショップを体験してどんな気持ちですか？」	
備考	「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?」は直感で動く。		



ワーク(展開)1
「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?」



ワーク(展開)2
「ロール・ディベート(役割討論)」



ワーク(展開)3
「ジョハリの窓」

内容詳細: 進行の仕方・ファシリテーターの言葉・気をつけたいこと

1

チェックイン

- 隣の人と「なぜ男性がよいか、女性がよいか」を伝えあう。
- ワークショップのテーマに合わせて、簡単に言葉にできることを聞くとよい。ワークショップに参加する雰囲気をつくる時間とする。

2

男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?

- 声明文の読み上げと、参加者の移動は、テンポよく進める。悩んで動けない参加者もいるので、様子を見ながら進行する。「1回パス」のルールを最初からつくっておいてもよい。答えがひとつに集中したり、バラバラになったときに「どうしてだろう?」と問いかける。または、その声明文をチェックしておき、ふりかえりで問いかけるとよい。

3

ロール・ ディベート (役割討論)

- 「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?」では、ジェンダーへの先入観について、自分自身の意識として考えたが、次の「ロール・ディベート(役割討論)」では、対立する2つ立場の設定を設けて、その立場の人物になりきって考える。
- ここでは、一方が「あなたは仕事と家事を両立させている女性です。夫が家事を行うのは当たり前だと思っています」という立場の人、もう一方が「あなたは仕事が多忙な男性です。妻が全ての家事を行うのが当たり前だと思っています」という立場の人を設定。
- 作成タイムでは、自分たちの考えが正しいことを対立するグループの人に説得するために、どんな発言をするべきか作戦を練る。自分自身の考えでなく、その人の立場になりきってディベートすることが重要であることを伝える。グループ分けはくじ引きでもよいが、男性が女性の立場、女性が男性の立場の人物になってよい。
- ディベートの様子を見て「こんな気持ちで意見を出してください」など声をかけたり、口論が出てきたら「自由な意見と悪口は違う」など注意を促す。
- ふりかえりとして、どちらが優勢だったか、またそれはなぜか聞く。本当は自分の設定とは逆の意見だった人に挙手してもらい、考えと違うことを話すのはどんな気持ちだったか聞いてみる。

5

ジョハリの窓

- 「ジョハリの窓」は、自己認識と他者認識の違い、共通点、発見をするアクティビティである。最後に「本来の自分」について考えるための時間を与え、性差ではなく個性を大切にすること、相手の個性も尊重することに気づかせていく。「さて、次のアクティビティでは本来の自分について考えてみましょう」と促す。

6

チェックアウト

- 隣の人と感想を言い合った後、数名に「どうでした?」と聞いてもよい。ファシリテーターからのまとめの言葉の代わりになる場合もある。

＊付属DVDの資料集に、「貼り紙」「声明文」「ジョハリの窓シート」「どんな人シート」のサンプルがありますのでご活用ください。

DVDの構成内容

ワークショップをはじめよう

参加型の人権教室

(全54分25秒)

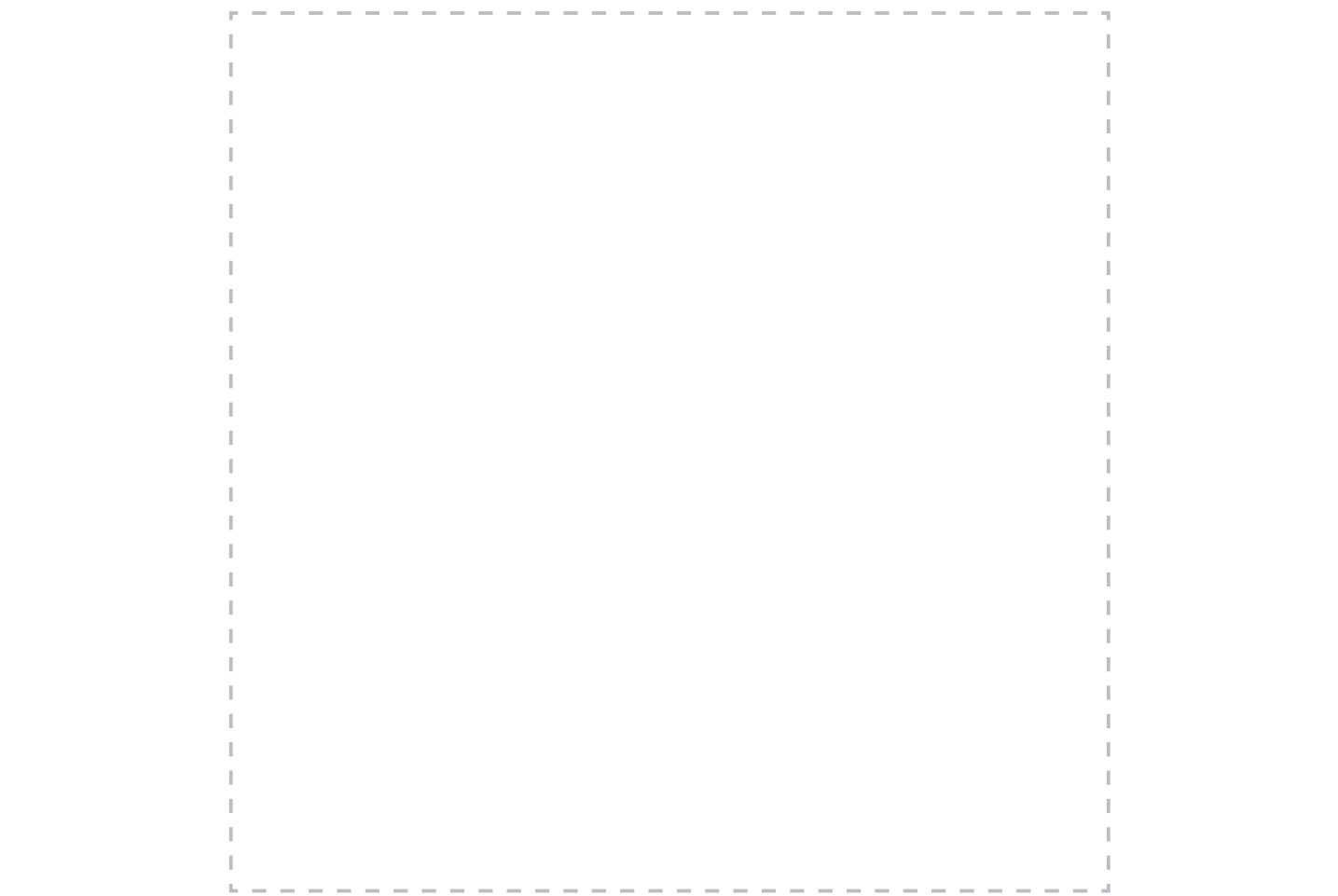
映像	ワークショップの実施例	28分52秒
1.	はじめに	(1分25秒／1分25秒)
2.	ワークショップの基本	(1分48秒／3分13秒) →P4～P7
3.	ワークショップの準備	(2分26秒／5分39秒) →P8～P13
4.	ワークショップの実施例 オープニング(導入)	(4分57秒／10分36秒) →P14～P15
5.	ワークショップの実施例 ワーク(展開) 1	(2分47秒／13分23秒) →P16～P17
6.	ワークショップの実施例 ワーク(展開) 2	(7分34秒／20分57秒) →P16～P19
7.	ワークショップの実施例 クロージング(まとめ)	(4分17秒／25分14秒) →P18～P19
8.	終わりに	(3分38秒／28分52秒)

映像	アクティビティ事例集	25分33秒
	はじめに	(32秒／32秒)
	〈オープニング(導入)で使うアクティビティ〉	
1.	「チェックイン」	(1分13秒／1分45秒) →P21
2.	「相手のよいところさがし」	(1分20秒／3分05秒) →P21
3.	「インタビュー」	(2分00秒／5分05秒) →P21
	〈ワーク(展開)で使うアクティビティ〉	
4.	「あなたはどこに立ちますか？」	(1分59秒／7分04秒) →P22～P23
5.	「一歩前へ進め」	(2分55秒／9分59秒) →P24～P25
6.	「男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい？」	(1分56秒／11分55秒) →P26～P27
7.	「ワールドカフェ」	(2分49秒／14分44秒) →P28～P29
8.	「ロール・ディベート(役割討論)」	(3分50秒／18分34秒) →P30～P31
9.	「ジョハリの窓」	(3分19秒／21分53秒) →P32～P33
	〈クロージング(まとめ)で使うアクティビティ〉	
10.	「沈黙」	(1分17秒／23分10秒) →P34
11.	「チェックアウト」	(1分03秒／24分13秒) →P34
12.	「展覧会」	(1分20秒／25分33秒) →P34

資料集 (※「資料集」はパソコンでの閲覧時のみ使用可能)

1. 「プログラムシート」	[Word] (ファイル名: 1_programsheet.doc)
2. 「声明文」(4. あなたはどこに立ちますか?)	[Word] (ファイル名: 2_seimeibun_4anata.doc)
3. 「状況のリスト」(5. 一歩前へ進め)	[Word] (ファイル名: 3_jyokyonolist_5ippo.doc)
4. 「役割カード」(5. 一歩前へ進め)	[Excel] (ファイル名: 4_yakuwaricard_5ippo.xls)
5. 「声明文」(6. 男の子は泣かない! 女の子は嘘がうまい?)	[Word] (ファイル名: 5_seimeibun_6otoko.doc)
6. 「ジョハリの窓シート」(9. ジョハリの窓)	[Word] (ファイル名: 6_joharinomadosheet_9joha.doc)
7. 「どんな人シート」(9. ジョハリの窓)	[Word] (ファイル名: 7_donnahtosheet_9joha.doc)
8. 「登場人物の顔写真」(実施例・リスペクトアザース)	[PDF] (ファイル名: 8_toujoujinbutsu_respect.pdf)
9. 「サンプル模造紙」(実施例・8. ワールドカフェ)	[PDF] (ファイル名: 9_mozoushi_8worldcafe.pdf)
10. 「貼り紙:賛成／反対／わからない／考え中」	[Word] (ファイル名: 10_harigami.doc)

※「資料集」のデータの取り出し方は、右ページをご参照ください。



「資料集」のデータの取り出し方

当DVDには映像の他に、「ワークショップの実施例」や「アクティビティ事例集」で使用した各種資料のデータ(P42・10点)も収録されています。

Windowsをご利用の方

DVD再生ソフトが起動している場合は、DVDのメニュー画面を閉じて終了する → デスクトップまたはスタートメニューより「コンピューター」を開く → DVDドライブを右クリックし、プルダウンメニューより「開く」または「展開」をクリック → 【DVD_DATA】フォルダをダブルクリック → 各データがあります。

Macintoshをご利用の方

DVD再生ソフトが起動している場合は、DVDのメニュー画面を閉じて終了する → デスクトップのDVDアイコンをダブルクリック → 【DVD_DATA】フォルダをダブルクリック → 各データがあります。

※「資料集」のデータを使用するためには、「Microsoft Word」「Microsoft Excel」「Adobe Reader」が必要です。
※「資料集」のデータは、人権ライブラリーホームページからもダウンロードできます。

人権ライブラリー 教材 検索

法務局・地方法務局の電話・メール人権相談窓口

みんなの人権110番(全国共通)
ゼロゼロみんなのひやくとおぼん
0570-003-110

子どもの人権110番(全国共通・通話料無料)
ゼロゼロななのひやくとおぼん
0120-007-110

女性の人権ホットライン(全国共通)
ゼロナゼロのハートライン
0570-070-810

インターネット人権相談受付窓口

●パソコンからは <http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>
●携帯電話からは <https://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html>

インターネット人権相談 検索